

日本大学工学部 校友会報



創立30周年記念特集号

平成元年3月1日

第 52 号



工学部情報研究棟(昭和63年4月)



校友会創立30周年 にあたって

工学部長

本郷 忠敬

工学部校友会は、昭和33年5月に工科校友会から独立して発足し、今年で30周年を迎えます。その間、歴代の会長・役員の方々をはじめ校友各位のご尽力により、今日のようなすばらしい充実した校友会に成長発展してこられたことは、各学部の校友会の模範であり深く敬意を表します。またこの機会に、会報の「創立30周年記念特集号」を発行する運びになりましたことは、誠に意義あることであり、心からお喜び申し上げます。この特集号の発行により、今までの校友会の輝かしい業績を記録に残し、なおいっそう校友会活動を広く理解していただけるものと思います。

校友会はこの30年間に、数度にわたる校友会事務局の移転・バス停の校内待合室の寄贈・育英奨学生制度の制定・図書およびクラブ活動の助成・学生の宿舎および就職の斡旋・大学紛争解決への協力・総合名簿の発行、東京・東海をはじめ各支部の結成、母校を訪ねる会など数々のユニークな事業を堅実に実行してこられました。なかでも、昭和49年11月の校友会館建物を学部の火災実験に供与されたことは、思い切った処置であり、敬意を表します。この火災実験は貴重な研究資料であり、永く思い出として残っています。また毎年北桜祭の時期に開かれる「母校を訪ねる会」は今回で8回を数え、工学部校友会の最も自慢にされている行事だと思います。久しぶりに訪れた校友は母校の発展ぶりに戸惑いすら感じるようです。青春時代を思い出し、恩師や旧友との懐かしい語らいはいつまでも尽きることはありません。このように、校友会は常に学部と一体となって活動し、学部に対して幾多のご協力をいたしております。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

また今年は、日本大学創立100周年の輝かしい年を迎えます。明治22年に日本法律学校として誕生してから、実に1世紀になろうとしています。この偉業をたたえて、大学では、記念式典のほかに大学史編纂・学祖山田顕義伯爵の顕彰・国際記念会館・学術情報センターおよび総合グランドの建設など盛り沢山な記念の行事や事業を計画しています。また工学部としては、数学関係の国際会議の開催のほかに奨学・研究基金の増額の設定をして、なおいっそう教育・研究の充実を図る計画を立てています。なにとぞよろしくご協力のほどをお願いいたします。

工学部校友会のますますの発展と校友各位のご健勝を祈念してあいさつとします。

(工学部長 昭和59年～現在)



校友会創立30周年 にあたって

校友会長

武田 仁幸

会員諸兄には益々、御健勝のことお慶び申しあげます。さて、わが工学部校友会も昭和33年5月発足以来、30周年を迎えることが出来ました。これも偏に、会員各位のご尽力の賜と心から感謝申しあげます。

30年を振り返りますと平坦な道ばかりではなく、特に思い出になるものは昭和42年の学園紛争であり、校友会も事務局を郡山市内に移転し、学部・校友会・父兄が一体となり、自主的に解決し父兄会の発足となり父兄会も20周年を迎えました。

昭和31年、日本大学第二工学部土木工学科出身の有志が相集い“日本大学第二工学部土木工学科校友会”が産声をあげ、昭和33年1月には機関紙“興土”を発行、現在の校友会の基礎をつくり、発展したのであります。この陰には土木工学科の元教授である新田亮先生には深いご理解をいただきまして研究室に連絡室を置くなど、大変お世話になったこと、今思い出されます。校友会は発足早々にして学部敷地を借用、校友会館の建設、付属高校の増設により会館は移転、学部開設当時の旧木造校舎が次々と耐火建築校舎に変貌、発展したのであります。木造の校友会館は建築学科の防災工学の実験材料として提供し、実験結果は防災上高く評価されております。

郡山の地域社会と共に発展してまいりました工学部も創設40周年を昭和62年に迎え、記念式典も盛大に催し、時代にマッチした、8階建の情報研究棟が完成。昭和63年度入学式の前日、高梨総長、柴田理事長の出席のもと盛大な落成式が開催されました。郡山地域テクノポリス指定の一翼を担う、“学”は地域に密着した研究開発のお手伝として工学部ここにありと思います。また、多様化する国際化時代、郡山市もテキサス農工大学の分校を誘致すべく検討中の中ですが、わが学部は、国際交流の場として最もふさわしく、日本大学14学部を基本に留学生の受け入れ、又は、海外に留学する学生を考慮し、国内外で活躍する校友のホームステイ、又、姉妹校の増設等が考えられます。

校友会30年の諸事業は日本大学14学部校友会の中で会員名簿の電算化、会報の年2回発行、在校生へのクラブ活動、図書の補助等、又、卒業して20年目の校友を“母校を訪ねる会”として北桜祭に招待、他学部校友会の範であると自負しております。これも学部当局のご理解があって出来るものであると信じ、校友諸兄のご健勝を祈ります。

(土木工学科 第3回卒)
(校友会長 昭和44～47年、53年～現在)



校友会創立30周年 にあたって

前工学部長

廣川 友雄

昭和56年11月に始まった「母校を訪ねる会」に集まる卒業生の諸君に会うと、みな卒業の時には思いもよらなかった母校の姿を目のあたりにして本当に喜んでおり、今後の母校の発展をさらに望んでいることが判ります。

昭和22年4月専門部工科として、無ともいえる状態から発足したわれわれの学部は当初から強い独立心、母校愛に燃えており、在学中のみならず卒業後もその思いを持ち続けている者が多くいます。特に学部開設後の十数年間は教授陣、設備、資金などどれをとっても不充分なものばかりであり、その正常化に向って当時の教職員、学生すべての者が苦しみ、努力したのであります。この間のことば「日本大学工学部三十年史」にまざまざと書いてありますが、読者は紙背に秘められた教職員、学生の心根を察していただきたいと思います。

このような中にあって、昭和33年5月に工学部校友会が創立されたのは、互の連結を密にすると共に母校愛を実りあるものにすることも、その目的に含まれてのことであると思われます。

「母校を訪ねる会」も校友会と共に催すことになりましたし、卒業式・入学式においても、新らしく生れる校友、また新らしく郡山で学ぼうとする新入生に対し、いつも新鮮な姿で激励していただいております。

昭和57年に名簿がコンピュータ化されたことは校友間の連絡にとって大きな幸でした。中でも各所属団体別の名簿が取り出せるようになったことは大変有効であって、特に近年各クラブの先輩が機会を作つて集まり、クラブ所属の学生を激励、援助することが多く行なわれ、その際有効に利用されているようです。

今や、28,527名の会員を有する工学部校友会はその基礎も拡充して來たことでもあるし、工学部と共に今後さらに飛躍するよう努力されることを希望致します。

尚、私事で恐縮ですが、昭和60年4月には、東京で総会を開かれるに際し、倉田先生、外木先生と共に謝恩会を開催して下さったこと、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

最後に校友会の今後の益々の御発展を希念致します。

(工学部長 昭和42年～43年、54年～59年)

[写真は昭和62年5月、勲三等瑞宝章の叙勲記念]



校友会創立30周年 にあたって

元工学部長

外木 有光

校友会が創立されてから30周年を迎える、いよいよ堅実な発展の途を辿っていることは、諸兄と共に誠に心強く感ずるところであります。ふりかえってみるとこれまで学生の下宿斡旋と学生生活に関する諸問題の解明・毎年学校への図書の寄贈・5支部の設立・専門部校友会の統合・北桜祭において「母校を訪ねる会」の実施など、広い範囲にわたって活発な活動を続け成果をあげている一方、校友名簿のコンピューター化などによって会員の動向を的確に捉え、内容を充実し、会の目指す目的に向って着実と実績を重ねてきています。それは歴代役員諸兄の御努力によるものであることは言うまでもありませんが、会員諸兄の協力もまた見逃すことはできません。

校友会は今後何十年間かは年毎に会員数が増加し、次第に大きな組織となっていきますが、いま、30年間の実践と経験を生かしてさらに飛躍・充実する重要な節目にきていると思われます。

校友会がさらに発展し、諸兄の大きな力となるために大切な要件のひとつは、全員がこれまで以上に協力一致して会の目的・使命の遂行に努めることにあります。言うまでもなく校友会は会員諸兄自身のものであり、自主的に運営される組織であるから、会が興隆するか、衰退するかは会員諸兄の熱意と努力が大きな影響を与えるものです。

協力一致はどのようにしたらよいかと言えば、まず会員の情報管理が校友会の重要な目的のひとつになっていますから、僅かな異同があっても事務局と連絡を密にし、正確な情報が常に保たれているように配慮することが必要でしょう。つぎには、校友会の行事には差支えない限り多数の会員が積極的に参加し、同級生のみならず先輩・後輩との交流を通じて親睦を深める心掛けが肝要です。さらに、諸兄が日頃抱いている意見は率直に表明し問題を提供することも必要です。

このようにして、どんな些細なことでも、諸兄の熱意と努力が結集されれば、それが原動力となって、校友会が飛躍的に発展する明るい明日が期待されます。工学部は昨年40周年を迎え着実に前進を続けています。日本大学は今年100周年を迎えるにあたり、多くの記念行事が計画されています。校友会の30周年は、こうした時期にめぐりあい誠に意義深いものがあると観じ衷心より祝意を表わします。

(工学部長 昭和48年～54年)
[写真は昭和62年11月、勲三等旭日中綬章の叙勲記念]

校友会創立30周年 にあたって



元校友会長

渡辺幸夫

人生も過ぎてみれば早いもので私も母校を昭和28年、第1回生として卒業、福島県庁に就職し63年3月、定年退職、現在県の外郭団体の福島県建設技術センターで第2の人生を過ごさせていただいております。この間、17回の転勤、2年に1回の割合で引越しをしましたがその土地土地で想い出に残る仕事、色々な方との出会い、別れがありました。たまに同級生に会うとお互いに頭に白いものが目につくようになり昔話に花をさかせることが多くなりました。こうしてみると校友会創立してからもう30年になるのかなあと感無量のものがあります。特に昭和33年の校友会創立に関係させていただいた1人として全国でも有数の内容の充実したすばらしい校友会に発展したことすばらしいことだと思っております。当時をふりかえってみると昭和30年頃、たまたま同級生の消息を知りたくて学校に電話したところ卒業時についてはわかるけれどもその後の動向についてはわからないということでこれから年とともに消息がわからなくなってしまうのではないか、これではいかん、消息をよく把握しておくような何かが欲しいなあ、また母校に行ったとき校友のたまり場的なところが欲しいなと感じ5科全部は無理だろうから土木工学科校友会だけでもつくろうと日大の先生、県庁や郡山市役所、郡山在住の有志の方々と相談し土木工学科校友会が先ず発足し昭和33年に発展的解消し全科の入った日本大学工学部校友会が誕生しました。私が初代会長をおおせつかったのですが何もない、すべてが1からの始まりですからかた手間ではできないので有給休暇は殆んど校友会の活動のために使いましたが当時の役員の皆さんもそれぞれに職場で忙しい仕事におわれながら本当に情熱をもって良くやってくれたなあと当時のことが想い出されます。また校友会発足時から学校当局の深い理解と協力がものすごくありました。私共学校出たばかりの20代の若さにまかせてあれもやりたい、これもやりたいと大きな夢をもって計画をたて学校当局にご相談申上げると親身になって相談にのっていただき、ご協力をいただきましたが現在のようすばらしい校友会があるのは学校当局と校友会が一体となって運営されてきたことと、その後の歴代の役員の皆さまのご協力があったればこそと心から敬意を表したいと思います。母校ならびに校友会がますますご発展されることを心からご祈念申上げ校友会創立30周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

(土木工学科第1回卒)

(校友会長 昭和33年～34年、39年～41年)

校友会創立30周年 にあたって



元校友会長

関根昭一

工学部校友会が創立30周年を迎えたこと、心からお祝い申し上げます。当校友会の創立は昭和33年5月郡山市商工会議所において第1回の総会が盛大に開かれて誕生致しました。この時の校友会設立の中心的な役割は土木科の先輩の諸兄であります。最初は第二工学部校友会という名称で発足致しましたが、昭和41年に第二工学部が工学部となり校友会の名称も工学部校友会となり現在に至っております。

工学部の創立は戦後間もない昭和22年に、東北の地郡山市の元海軍航空隊の敷地に「日本大学専門部工科郡山」という校名で創立致しました。当時校舎は木造のおんぼろ兵舎を利用し、実験施設設備も殆んど無い状態で、講義も休講が多く名ばかりの大学であります。

以来42年の歳月が流れました。大学当局は勿論、地域社会のご支援ご協力により、今日の工学部の姿を見るに至りました。その発展と隆盛に対し敬意と祝意を表するものであります。

我々が校友会も発足当時、昭和33年の年間総予算額は僅か、112万円で運営をしており、校友会の事業として、アカシヤ育英会奨学資金制度をつくり、学生に奨学金を給与し、また学生課と協力して学生の下宿の斡旋など母校のための校友会として、学生への還元活動に力を入れて参りました。

その後、昭和42年から43年にかけて全国的に波及した学園紛争がご多分にもれず、工学部にも火の手があり、管理棟の一部が焼失するという不祥事が起こり、大学教職員、父兄会、校友会の方々の結束した努力により解決の方向に向かった事も歴史の1ページとして記憶すべきであります。

地元郡山市も新産都市、東北新幹線の開通、新技術分野の工場誘致、そして人口の増加と、めざましい発展を遂げております。工学部ならびに校友の皆様の力もまた、郡山市の発展に寄与しているわけでございます。特に理工系である我が工学部の卒業生である校友諸君におかれましては、北は北海道、南は九州と全国各地でそれぞれの専門分野において大いにご活躍されて我が国の産業界に貢献されておりますこと、誠に心強く思っております。最近学部と校友会で主催している「母校を訪ねる会」に出席の校友諸君の報告により、その実社会での活躍はめざましいものがあります。さらに一層の活躍を期待し、最後に校友会創立30周年にあたり、工学部ならびに校友諸君の益々のご発展と、学生諸君の一段の向上を希望致します。

(電気工学科第2回卒)

(校友会長 昭和34年～39年)



校友会創立30周年 にあたって

元校友会長

太田 雄八郎

日本大学工学部校友会が発足してから早や30周年を迎えることが出来得たのも、校友会会員を始め、大学当局、諸先輩各位のお力添の賜であり、皆様と共にご同慶にたえません。

この会は工学部を卒業された校友で大学の基本理念である「建学の精神」に基き、学術研究の推進並びに会員相互の向上親睦を図り母校の発展に寄与する目的で発足して、以来2万数百有余名を有する大きな組織に発展して参りました。

今や全国各地で、エンジニアとして経営者としてそれぞれの地域のリーダーとして、大いに活躍されており、更に各地に支部を結成し、会員相互の親睦を図りながら母校の振興、会の発展に大いに活躍しておるところであります。本年は改元され平成元年に日本大学創立100周年を迎えることは大いに意義が深いものがあります。

更に工学部も郡山の地に専門部工科として移転して41周年を迎え、歴史と伝統を持つ我が國最大の私学の雄として発展の途を辿っているところであります。

この郡山の地は県の中央に位置し、明治の始め士族による開拓者達の手によって開拓され、商工業の都として更に陸の港として歩んで来ましたが、昭和39年に新産業都市の指定を受け、昭和40年には1市11町村が大同合併し新郡山市になり、更に又昭和61年にはテクノポリスの承認指定を受け「産・学・住」三拍子揃った地域開発を進めております。それと相俟って高速交通時代に入り東北高速自動車道が整備され、又東北新幹線が上野～盛岡間が開通され、今は東北横断高速自動車道（いわき～新潟間）が建設工事に入り、更に又福島空港が近隣の須賀川市東部に建設中であり、正に高速交通時代に対応しながら21世紀に向けた都市づくりがなされており、東北地方の表玄関として東北の中核都市として一大商工業都市として建設を目指し発展を続けております。

幸いにして我が母校工学部が当郡山市にあり、テクノポリス地域内にある研究機関としてその構想実現に役立つものと確信しております。延いては日本大学工学部校友の誇りであり、郡山市民からも敬愛され親しまれているところであります。

今後も工学部の地域に果す役割は大なるものがあります。

終りに臨みまして校友会会員各位には日本大学の誇りを堅持され、益々のご活躍ご発展を祈念すると共に、母校の発展更に会の発展のためにご支援ご協力をお願ひいたし益々のご隆盛を祈念いたします。

（土木工学科第3回卒）（校友会長 昭和47年～50年）



校友会創立30周年 にあたって

前校友会長

松山 光克

記念すべき年にあたり30年前をふり返ると話題はきれることなく、思い出が先日のように浮かんできます。昭和33年5月22日、日本大学第二工学部校友会が創立された当時は会員数も僅かで、卒業後、自営組と就職組とに分かれ、各々の職場において日々も浅く無我夢中の毎日であった記憶がのこっている。そのような環境のなかで初代会長として渡辺幸夫先輩が、校友会の基礎を築きあげたことについて、改めて感謝を申しあげます。年々母校を県立つことによって会員数も増加し会の内容も充実され、日本大学本部からも存在を認められ、当校友会から評議員として、一名の代表をおくり、母校の隆盛をみまもっておるところである。会の目的は会員相互の親睦を図ることにつきると思うが、会員の消息を明らかにすることが、必ず第一の条件であり当校友会においては5年おきに会員名簿の作成を名簿編集委員会によって作成しております。昭和62年版のなかでは、27,706名の会員数であります。以上のように30年前、僅かな会員数で発足した頃を思い浮かべると、現在は苦難に耐え、会長を中心に役員が一丸となって会の運営について責任を分かち合い、21世紀にむけて邁進しております。毎年四月には新入生が生き生きとして入学式にのぞみ、毎年三月には卒業生が実社会に技術者として全国各地にわかれ、校友会の正会員として、仲間として、たのもしく将来の校友会を支えてくれる後輩諸君であることを感じ毎年卒業式に来賓として出席をさせていただいている一人です。ご存知のとおり支部結成により、校友会事務局も、46年4月東京支部が結成され、続いて東海支部・北海道支部・九州支部・四国支部、等誕生し全国の動向が身近かに感じ、先輩、後輩の交流等、工科系ならではの結束があり、たのもしい限りであります。これからは校友会のあり方としてどのような進路をとるべきか、次の世代に間違いのない方向づけが必要であり、責任を痛感いたします。概ね第12回卒業の年代（会員数3,164名）までの子供さんのうち、母校に入学し、そして卒業された親子二代の校友も様々誕生し喜ばしい限りである。母校愛に燃え、最近では珍らしいことではなく、自営業等で親子が第一線で活躍している羨ましい光景をみております。

我々の年代になると、職務のなかで種々な会合に出席する機会が多いが一番心強く感じることは校友諸兄がそれぞれの機関の重要ポストにつかれ活躍中であります。この勢いは将来に向って一層の隆盛は確約できるものと推察いたします。私達は後輩の育成に責任があります。共存共栄の一語に尽きるものであります。おわりにあたり校友会の益々の充実を祈念いたします。

（土木工学科第3回卒）
(校友会長 昭和50年～53年)

東海支部からのメッセージ

東海支部長 平野 卓

校友会創立30周年の節目を校友の皆様と共に心からお喜び申し上げます。

私は、土木3回卒業だからその数年後に校友会が設立されている。その頃は安積永盛駅前の橋（通称チントリ橋）は木橋、いや丸太橋の上に板を敷並べた橋で一旦洪水にでもなろうものなら危なくて渡れるものではなかった。勿論、戦後間もない時代で兵舎が学校に変ったばかりだから木造2階建のお粗末な教室での勉学である。

学卒と同時に大規模工事に従事することを望んでダムの建設現場に就職し、ダム工事事務所から次の工事事務所へと渡って28年間、建設省にお世話になり、いや国民の公僕の一員として頑張って来たつもりである。今では第二の人生として、東京エンジニアリング株式会社に勤務している。

月並の言葉だが、光陰矢の如し、と申しますが、まさしく時の流れの速いこと身をもって体験した数えきれない程のことごとが思い出されてきます。

その一つに東海支部の結成がありますので、その経緯を紹介しておきましょう。

私が、丁度中部地建の矢作ダムが完成して、都市河川、名古屋市西部を貫流する庄内川工事事務所に転勤になった時のことです。工学部校友会を創立して10数年後ですので会も充実して來た頃だと思います。既に地方では東京支部が結成され、東海地区にも支部結成の機運が高まり、本部役員武藤氏（土木8回卒）と荒井氏（土木5回卒）河野氏（土木6回卒）より話しがあったのが始まりです。その当時は日本経済の高度成長期で難なく準備万端東海支部が誕生したわけです。

それ以来毎年総会を開催しているわけですが、毎回来る人、隔年の人、数年後に出席する人、初めての人と様々です。東海支部は、年会費・入会金等は一切徴収しておりません。その都度の会費で運営しておりますので、校友なら何時でも、何処でも出席出来る様にしております。

年に一度の総会では疎縁になることを考慮して、新年会、忘年会、時にはゴルフ大会等を開催して先輩、後輩の親睦を計りつつ18年になり、もうすぐ成人を迎えようとしております。これも一重に支部各人の協力があってこそと紙面を借りて御礼を申し上げる次第です。校友の方々が全国津々浦々で御活躍されていることと存じますが、校友会はあくまで親睦団体で、ボランティア精神がなければ仲々出来るものではありません。会の運営を計る本部役員に対し心から敬意を表すると共に、校友会の発展と皆様方が増え御健勝で御活躍されることを祈念致します。

北海道支部発足当時を回想して

北海道支部長 松山 忠牡

北海道支部準備会代表世話人 船越 政明

昭和48年春、当時の同窓生の特徴としては、昭和34年～昭和35年ごろの建築学科の卒業者が札幌市に多く、年一回はそれぞれの近況を話し合う機会を持ち、公私共に親交を深め同窓会の成果をあげていると聞き、建築学科の諸先輩に働きかけ賛同を得て、ついに昭和48年の夏「準備会」の発足に至った。何度か準備会を開いた中の意見として、

- (1) 北海道は広く、例え同窓会を開いても参加可能な同窓は、札幌近郊在住者に限られてしまうのではないかという懸念がある。
- (2) 広く同窓生間の連絡を密にするために支部名簿の作成が不可欠であるが、その場合の住所・氏名を正確に把握すること。名簿作成費用の念出について。
- (3) 同窓会を開く意義を深めるためには、母校より恩師を迎える話をしたい、郡山の学校の近況を知りたいとの意見も出された。
- (4) また、皆が集まる時期についても、北海道特有の問題として夏は公共事業の現場の最盛期で極めていそがしいこと、一方冬期間は本州方面への出張があり、総会の時期についても慎重に選ばなくてはいけない。

この様な課題があるにも関らず、同窓会結成、総会開催のムードが高まり、「我が校は他校に比べて年齢が若く、バイタリティに富んでいると自負しているところである!!」などの特性から「若い同窓の参加ができる限り多くし、会の活性化を図ってゆけば、充分同窓会の意義が保たれる」との意見が全体を動かし、準備会を終えたことは当時の懐しい思い出である。さらに、校友会本部の武田会長や大学の田嶋教務課長には何度も御来道いただき御知恵を貸していただいたことに本稿をもって感謝いたし御礼申し上げます。其の後同窓会名称も「日本大学工学部校友会北海道支部」と決定、1期から22期までの卒業生をもって第1回目の総会を昭和48年夏に開催した。総会には当時北海道に在住の約半数の110名の同窓及び、本部校友会会长・役員の方々、並びに大学から各科の先生方の参加により盛大かつ有意義に行われた。会場では、いたるところで話しの輪ができ、時間をわすれ夜更まで会が続いた。この第1回目の参加者の感動がその後の会の運営に大きな活力となったことは言うまでもない。

其の後毎年、あるいは近郊の校友相互の親睦会も行われ札幌、函館、旭川等々、相互の交流の輪が広がっている。北海道支部も近年増え活動が活発となり、総会はもちろんゴルフ大会なども恒例化するなど会の充実と同窓校友間の連けいが強められております。

本年、校友会本部30周年と聞き、北海道支部としてもお祝い申し上げると共に役員の方々の御苦労に感謝いたします。

校友会創立30周年にあたって

九州支部長 矢 俣 敏 之

我が日本大学工学部校友会の創立30周年に当り、まことに感謝の意を表します。

何事も持続する事に使命が有ると云いますが、校友会も其の喩と同じと思います。「30年間」工学部に学んだ校友会各位の励ましと力添えにより立派に生長し続けた事は、一校友会員として誇りとする所であります。

日本大学としては開校以来100周年、工学部は40周年の記念すべき年月に当り、校友会の30周年と輝かしい日々であります。

「日に日に新たに……」の校歌の真髓の如く、目覚しく発展して今日に至り、明るい希望の将来に向けての新たな出発点と成ることは、誠に感慨無量の思いが致します。私事で恐縮ですが、30年前は在学4年生で戦後14年目に、やっと日本が安定して来た時期に到達した頃だったと思います。今から思えば考えもつかぬ貧困の時代からやっと立直りを見せた頃で、食べる事が精一杯という貧しい日本だったと記憶しています。

九州より大学迄の道程一つとっても24時間掛りで東京へ出て、上野より7時間掛りで郡山という丸2日の大旅行だったのが、ついこの間の事の様に思い出されます。

年2回のクラブの合宿の場合等は各部員が米を持参という今ではとても想像もつかぬ学生生活ぶりでした。しかし長い人生の中で僅か4年間の大学生活得たものは計り知れないものが有ったと思います。全国各地、北は北海道、南は沖縄の友達が出来、友情を高める事が出来たのも日本大学の一員として誇りと責任を感じるものです。

九州支部は、東京、東海支部に次ぐ4番目に発足した支部で、発足以来8年目を迎えたばかりです。8年前、川越支部長のご尽力により支部としての活動を軌道に乗せてもらい、後を引継いだ私が何とか校友会各位の親睦を図っています。まだまだ若い会員が多い支部ですが役員始め会員各位のご理解と応援により、年一回の総会は九州全域より約70名の同胞が参集し、武田会長臨席のもと明日からの心の糧として語り、飲み明かしたもので。唯一の悩みは校友会の意義を若い世代に理解してもらうかで役員一同色々対策を考え、皆が自然に出席出来る日として「博多山笠」の日に開催したりしていますが今一と云った所です。もっと自由に校友会の親睦の輪の中に溶け込んでほしいと願ってやみません。

終りに当り30年という立派な歴史を築き、育んでもらい、これから50年、100年と益々校友会の輪が広がる事を祈念すると共に、校友会各位のご健勝と益々のご発展をお祈りして、記念の言葉と致します。

校友会四国支部設立の想い出

四国支部長 谷 久 嘉 典

香川県には以前から日大工科全体を対象とした工科校友会はあったものの理工学部が主体で工学部の卒業生の出席は非常に少く常に肩身の狭い思いをしてきました。55年の総会の席でたまたま工学部の卒業生が7名程集り郡山での事、学校での想い出を語りあう事ができ、いつになく楽しい一時を過す事が出来ました。

初対面ではあったが郡山を第二のふる里とする校友ばかりと云う懐しさと気安さからそのまま別れづらく2次会に行き共に郡山を語り共に肩を組んで校歌を歌い夜のふけるのも忘れて歌い語りあかしたのでした。そうした中から香川県に工学部の校友会を作ろうと云う気運がたかまり、校友会本部から名簿を取り寄せ大島(機)、長尾(電)、の両先輩の御指導を頂きつつ校友会の設立準備に取りかかったのでした。鎌田・松波・六軍・平山(土)、北岡(工化)、松田・西村・松崎・牧野(建)、君等の御協力を得て設立準備会を結成し校友の名簿の整理にあたったのでした。

最初は簡単に考えていたのですがいざ実行してみると思わぬ苦労の連続で、皆で手わけして校友を求めて香川県中に電話をかけまわったものでした。そうした努力が実って70名余りの校友の消息を確認する事が出来、香川県工学部校友会(アカシヤ会)の設立総会を昭和56年6月20日に開催すべく案内状を発送致しました。当日会場には校歌がながれる中、初めて見る顔、卒業以来初めての再会を喜びあう顔に、いきいきと楽しそうな校友の姿を見るにつけ校友会を作つて良かったなとしみじみ思いながら共に学生時代にかえつて思いきり酒を酌み交したのでした。

第2回目からは愛媛を始め徳島・高知から多くの校友の参加を頂き一段と盛り上った校友会になりました。香川を中心とした四県の校友が集う内に四国支部設立の気運が高まり、武田会長の御指導を頂き高知・濱田先輩、徳島・岡久君、受媛・渡部君達とも連絡をとりつつ昭和60年7月、四国支部の設立にこぎつけたのでした。

昭和63年の第4回総会は愛媛の永井(建)、渡部(土)両君を中心とした多くの愛媛の校友や御婦人方の御協力を得て初めて松山市で盛大に開催する事が出来ました。今日迄四国支部を盛り立てて来て下さった400余名の校友に誌上で以て感謝申し上げますと共に全国の校友の皆様方の御活躍をお祈り致します。

創立30周年記念座談会

若い世代の会員から見た校友会活動

記念座談会

とき／昭和63年12月7日 ところ／日本大学郡山研修会館

出席者／佐藤透佐久（土木29回卒）郡山市役所

佐藤久美子（電気33回卒）日立テレコムテクノロジー（洋弓部）

塙原 修（機械34回卒）郡山北工業高校（英語研究同好会）

大島 一浩（機械4年生）（サイクリング同好会）

林 垂代（電気4年生）（バトミントン部）（留学生）

橋爪 美佐（建築2年生）（水泳部）

武田 仁幸（校友会長） 半沢 忠（副会長）

佐藤 吉新（副会長） 村田 吉晴（事業部長）

司会 佐藤 光正（事務局長）

写真 田中 孝（事務職員）

本日はご多忙のところご出席下さいましてありがとうございます。本年は工学部校友会が、昭和33年の5月22日に誕生しましたので、創立30周年を迎えることになりました。この意義深い年を記念して、校友会では、会報の記念特集号を発行することに致しました。ここには、クラブ活動などに参加している在学生諸君と比較的若い校友の方々との座談の記事をのせて、若い方々の見た校友会、若い方々の校友会への期待などを紹介致したいと思います。なお本日ご出席いただきました方々は、上掲の通りです。

—— 在学生の方々で、最初に校友会とかかわったことはどんなことでしたか。

橋爪 私が「校友会」という言葉を最初に聞いたのは、下宿紹介でお世話になったときでした。女子を受け入れてくれる下宿が少なくて苦労しましたが、校友会で大変良い処を紹介していただきました。とてもたすかりました。ふだんはあまり馴染みのない土地でよく分からなかったのですけど……。

—— 林さんは工学部に留学なされておるわけですが、マレーシアには校友会のような組織はありますか。

林 校友会のような組織はないみたいですね。

半沢 そうですか、それではこのような団体に対してどのような感想をお持ちですか。

林 よくまとめて申し上げられませんが、マレーシアにも日大を卒業された方はいらっしゃると思います。マレーシアに帰ったら、よい関係ができると思います。

大島 僕は、下宿とクラブの件で大変世話になりました。3年生当時クラブの会長を務めましたけど、OBの方々の名簿を集めなくてはならなかったのですが、

校友会の方で、クラブ別名簿というものを作成していましたので、助かりました。

—— そうでしたか。

大島 ふだんの学生生活の中で、校友会がどんな活動をしているかななどは、そんなに学生の方に伝わってこないのが現状のようです。

武田 校友会としては、在学生諸君に、卒業生と同様会報を配布しているのですが、それでも……。



武田会長



大島君

大島ええ、それは読みますね。

武田特に4年生諸君などは就職活動の面で活用していただきたいものです。

村田 土木の場合は、割合に出身地指向が多いですから、校友会の県別産業別名簿などで先輩の勤めている会社を訪ねて、情報をいただくのもずい分有利だと思うんです……。勿論、他の科の方々も同様だとは思いますが……。

—— そうですね、校友会の大変な事業は会報の発行と会員の方々の掌握だろうと思いますので……。会としては相当の経費を使って、名簿のコンピュータ化をしましたし、メンテナンスも含めて、管理維持には支出をしています。

佐藤(久) 私も在学中にクラブ活動でOB会の名簿の件で校友会を訪ねましたら、すぐに差し出されて、大変おどろきました。先日は、たまたま同期の方の住所が知りたくて、校友会にお電話をしましたら、何年度卒の佐藤ですと申し上げて、そうしますとすぐに教えていただきました。

塙原 私は、現在工業高校に勤めておりまして、進路指導部に所属しているのですが……。ここでは、卒業生で、どこの企業に誰がいっているというようなことは、カードに記録しておるわけです。その面からみると、校友会の方法はすばらしいと思います。私は生徒達が、指導部にきて、自分の希望している職種とか、どんなところに行きたいかをインプットしてやれば、すぐ出てくるようなシステムを導入したいと思いますね。

—— 佐藤さんは市役所にお勤めですが……。

佐藤(透) はい、いま郡山市役所には職員が2,400名ぐらいいるんですが、日大卒は、一割の240名ほどで相当な人数なんですね。みんなで桜門会をつくって活動しています。私は勤めてから8年になりましたが、仕事に責任を持たれますと、人間関係がとても大事になってくるんです。仕事の面で県の方々と連絡をとらなければならないようなとき、先輩とか後輩とかに連絡をとりますが、校友会名簿が役に立っているわけです。それから、校友会報ですね、いつも楽しみに読ませていただいているんですが、とてもよいですね。私は地元なもんですから、下宿とかでは関係がありませんでしたから、学生時代は校友会を身近に感じなかつたんですが、卒業してから、かえって身近に感じる機会が多いですね。

—— いま会報のことも出ましたので、半沢副会長、のことでお話がありましたら……。

半沢 校友会創設以来、会報につきましては、編集などで役員の皆さんにご苦労をおかけしております。しかし、何と申しても、近年の郵送代の高騰ですね、とにかく印刷代の倍も郵送代なんですから……。それで、役員の中には、年1回にしてはとか、の声もありまして、現在の12ページもの年2回の発行について検討しようじゃないかという方もおるんです。しかし、このたびは特集号ということで、1回発行となりましたから、例年ですと9月に発行する会報はなかったわけですね、そうしましたら早速、「会報が届きませんが、どうしたのでしょうか」などと手紙や電話が入る始末で……みんな会報に期待をもっているんだな……と思いました。校友の方々もこのごろはたくさん海外で働いておりますが、当然勤務地に会報を送りますね、すると、ありがとうございますと、よくご返事をいただきます。学校の現況、校友の消息など、最少限の情報ですけど、こんなによろこばれていると思うと、会報編集や、発行について現状のままにすべきかどうか意を決しかね

ているわけです。

大島 印刷代より郵送料が高いんですか……。

佐藤(透) 会報には、ほとんど卒業生の方々が載っているわけですが、今日も出席されている在学生の方々の新しい目というか、そういう考え方の文なども、会報に少しひとり入れていただきたいですね。今の学生はどんなふうな考へで学生生活を送っているのか、そういうものは、私のころとやっぱり變っていると思うんですね。そんなフレッシュな話題というか、そのようなものも、入れていただきたいですね。

—— そうですね、在学生諸君にとっては、たしかに一方的な情報ですね。

塙原 新しいところでは、1対1のインタビュー記事などをお願いしたいですね。



佐藤(吉)副会長



塙原君

佐藤(吉) 会報には、校友会の定期総会についてご案内しておりますが、是非時間の許すかぎりご出席いただきたいと思いますね。総会の席で、具体的で建設的なご意見をいただきたいと思うんですが……。

—— なにか会報以外のことはどうでしょうか。

塙原 日本大学工学部は、郡山地域テクノポリスにかかわっていて、地域に根差していて、技術の先端を担っている存在だと私は思っています。大学内での研究の一部分をですね、私の勤めるような工業高校の生徒にも理解できるような、わかりやすいものとして示していただけると、生徒も大学では、こういう研究をして、こういう楽しいことがあるんだということがわかるのではないかと思うんです。いまは、ただ大学ではこんなことをやっている程度のことしか紹介できないわけですね。卒業研究発表会がありましたね、そんな中に何かわかりやすいのがあれば、紹介していただければと思うんですが……。

村田 学内での学術研究発表会には、学外の校友の研究発表の場として校友であればどなたでも発表されてよいわけです、そんな意味で校友会では協賛しておるわけですから……。

武田 今年は12月3日に学術発表会があったわけですが、発表予稿集がありますから発表の内容を知りたいとおっしゃれば、入手できると思います。親しい先生におねがいしてみてはどうでしょうかね。

—— 塙原さんのおっしゃることは、卒業研究でも、先生方の学術研究でも、生徒に理解しやすいものを紹

介して下さいということなんですね……。

塚原 ああこういうことをやっているんだな、ということがわかると思うんです。

大島 逆のことも考えられませんか。企業には、いろいろな方もいますね。そこで研究とか、そういうものを校友会報を通してでも知らせていただけないでしょうかね……。

—— 現在でも会報で、各科ごとに卒業生の研究や仕事などの紹介をしておりますけど……。いまおっしゃるような、学内でのものを積極的に知りたいというご意見を伺うのは始めてなんですが……。

佐藤(透) 毎回くる会報は本当に楽しみで、卒業してしまうと会報ぐらいが大学と今の自分をつなぐ接点で会報がくると、俺は日大だったんだと改めて思うわけで……。今までいろんなご意見がでましたが、私は、そんなに詳しい内容じゃなくていいから、今工学部でどんな研究をなさっているのか分かる程度で知らせてほしいと思うんです。

武田 いまのところ会報の性格はですね、一種の報告書だったわけですが、これ以外に、学校の情報を下さいのいうのが、卒業生の声となってきたんですね。この点について努力しなければといま思っています。

—— 村田さん、事業内容のこと何か……。

村田 下宿紹介は、過去には大変重要な活動であつたわけでしたが、現在はどの程度必要なものかと考えているわけです。下宿紹介のいきさつは、当時学校近くに学生を下宿させてくれるところがなかったわけで、校友会の係の者がお願いに歩いたんですね。その名残りが現在の形となっているわけです。下宿紹介も、これから増加傾向にある留学生諸君へのサービスなどをレパートリーとしてはどうだろうかなどという意見もあるんですが……。林君は現在どんな生活をしているんですか。



村田事業部長



林君

林 私は最近下宿に入ったのですが、困ったことは、お風呂に入る時間が限られているんです。サークル活動して帰りますと間に合いません。結局、2日おきに入っています。学校に行っても風呂に入らないと気持ち悪いですからね。シャワーでも良いから自由に使えるようにして欲しいと思います。

大島 その点は他の下宿もほとんど同じですね。

武田 紹介した下宿のトラブルは実はあまり耳にし

ませんが、学生諸君が自分でみつけたものではトラブルがよくあるようです。特に金銭的な面のトラブルがあるようですね。先日、父兄会の全国支部総会、あるいは支部長会などに参りました折に、このような話を聞いたわけです。とにかく下宿のことは校友会の方でガードして下さいということでした。このような話を伺ったとき、私はやっていてよかったなとつくづく思いました。

—— 事務局では正確な情報が、トラブルを防止していると思います。いまのご父兄さんからご支持いただいた話は気強いですね。

塚原 将来、校友会の運営ということで大学の紹介をしていただけませんでしょうかね。高校についていうならば夏休み期間中に、中学生の学校訪問というものがあるんです。一日体験入学ということでやっていけるんですが……大学を選ぶ高校生にですね、各科の内容を知らせることができたら、とてもよいと思うんですが……。

橋爪 私は和歌山から郡山にはじめて来まして、下宿さがしをいたしましたが、校友会に行けば見つかるからと、当然の気持で決めましたし、友達と新しくアパートに移るときも、校友会に行けばさがしてもらえるみたいな安易な気持で生活していましたが、このようなお話を聞いて、校友会の方々の苦労の上にあったんだと、今改めて感謝しております。



半沢副会長



橋爪さん

—— それでは在学生の方で、大島君に大学の食堂メニューについて伺ってみましょう。

大島 学食は混雑していて、まず落付いて食事ができないですね。メニューも安いですけれど、私は四年間食べきましたが、どんどん質が落ちてきているような気がするんです。それに、僕達が食べているのに、横でお掃除を始めたりするんです。学食は学生が落付いて食べれて、いろいろなコミュニケーションをはかれる場所だと思うんです。もう少し落付いた雰囲気にしてもらいたいですね。もう一つつけ加えるなら作る場所と食べる場所を仕切っていただきたいですね。

—— どうも、食事のメニューではなく心のメニューになったようですが……。

半沢 こんど機会がありましたら学校に申し上げましょう。そういう意味では、情報研究棟8階の食堂は非常に良いと思うんですが……。

橋爪 お話をありました8階の食堂は、ゆっくり優雅にお食事ができますし、そのために前からある学食も少しある混雑も緩和されたという意見もあるんですけど、ともあれ学食に対する女子の方の意見としましては、定食というか、ランチというか、B定というのかあのメニューで、ご飯がものすごく多くて、食べきれないんですね。(笑) 他の大学へ、サークルの大会などで行って学食に入りますと、ご飯は、大きいのと小さいのがったり、おかずも一つ一つ自分で選んでセットするようになっていますね、実際にうらやましいです。いつも女子の間ではこんな希望があるんです。

大島 女子じゃなくみんなの希望じゃないですか、それは……。(笑)

佐藤(久) 学食の安さっていうのは、もう他の大学にはほど安いんじゃないですか……。

大島 安いんですけども量より質の点がどうも…。

佐藤(久) 私はまだ旧人類かも知れませんで……。やっぱり安い方がうれしかったですね……。(笑)

—— 先程、塚原さんからちょっとテクノポリスのお話をしましたが、上部が、産学官の学の一端を担っているわけですが、佐藤さん何かございましたら……。

佐藤(透) テクノポリスに指定されたのは、ちょっと大きさかも知れませんが、日大工学部があったからだと思います。私としては、日大の工学部に先端産業関係の学科なりを増設していただいた方が、よろしいのじゃないかと考えているんです。いま日大が中心となってテクノポリス関係が進んでいますから郡山に新しくできる大学よりは重要視される面が大きいと思うんです。この辺の推進、つまり学科増設関係の運動推進というのも、OBとしてやっていただきたいと考えているんです。

塚原 今日こちらに向う時、教養講座が非常によかったです。これが頭から離れませんでした。このような催をこんどは、外部から講師をよばないで、学部内の教授の方々にお願いしてもよいですから、OBと在学生を対象とするような講演会みたいなものを、校友会でやっていただけないでしょうかね。OB・在学生・先生の間にこんな雰囲気ができたら最高だと思うんですね……。



佐藤(久)さん



佐藤(透)君

佐藤(久) 教養講座は外部の方々もお聞になれるものでしたね。でも時間帯がちょっと……ね。

半沢 実は塚原さんのお話のことですが、数ある校友の中には、実社会で相当成果をあげて名を成している方もいらっしゃるわけで、校友会ではこういう方を講師として学内で講演会をやりましょうと企画したことがありました。

大島 現在はどうなんですか、今だって学生としてはそのような話は、絶対に聞きたいもんですよ。

林 たいへん失礼だと思いますが、とても大切なことをお忘れではないかと……。それはアルバムのことなんです。私はもうすぐ卒業なんですが、みんな別々に各学科でつくっているようです。これを全部まとめて校友会でつくって欲しいと思うんです。まとめると価格も安くなると思うんですがね。

武田 全部まとめるとなると膨大なものになってしまいますので、とても無理だと思うんです。

—— 林君のおっしゃるのは、各学科の内容を一冊にまとめるというのではなく、要するに一冊15,000円もするものを各科ごとでなく全体として校友会が音頭をとってくれたなら、もっと安くなりはしないかということなんですね。

林 はい、責任をもってやっていただきたいと思うんです。

佐藤(吉) 校友会の趣旨は、やはりこういうことも含んでいるんですね。

—— 林君は遠くから来ているから、皆さんの顔を一人でも多くマレーシアにもって帰りたいんだと思うんです。この縁が将来どんな形で生きてくるか判らないですからね。本当に貴重ですよ。

大島 いまさかんと国際化といっていますね、日本人が盛んと海外へ行っていますが、それはそれで良いんですが、しかし外国へ行ける方々は、一部の者に限られてしまいますね。これにくらべて、海外から留学生を受け入れてくださいますと、1人の留学生と研究室の20人が一緒に学べば、20人が留学したくらい影響をあたえてくれるんで、すごい効果があると思うんです。校友会には、留学生が、安全に安く住める住環境を確保してもらえば、来る方も安心して勉強できますしこちらもそのようなところに行っていろいろ勉強になると思うんです。

—— 林君の風呂の話や、今の話をききますと、留学生会館でもあればという思いに至りますが、こんなことも、校友会あたりが努力すべきことなんでしょうね。

林 自分は今、下宿に入っているんですけどいろいろと良い面もありますね。日本風の料理とかが出てきたりします。自分が1人で店に行って食べていただけには食べれませんでした。これからも下宿をつづけて、日本の方の作った料理をたべいろいろ経験したいと思っています。あと、下宿のおばさんとかみんなに親切にされてお世話になったりしています。

[13ページへ続く]

日本大学工学部教員名簿 (昭和63年12月現在)

一般教育

教 授
 岩淵 悟
 岡部哲也
 小倉 崑 理博
 梶川 渉
 小角義次
 紺野 忠
 繁 肇 工博 ○
 寺内隆太郎 理博
 中野富士雄
 永塚 功
 西本勝之
 林 精一
 伏見士郎
 堀田正夫
 菅田克彦 理博
 水野信義
 横井 博 文博
 蓬田和夫 工博

研究所教授

山村 敬
 助教授
 伊藤益基
 片山善重 理博
 唐木沢孝夫 理博
 小林忠正
 佐藤 獻
 常盤 満
 中村 穎
 中村宣弘
 星 一以 ○
 本郷建治
 本田俊教
 柳原隆司 理博
 矢部洋三
 和田 勝

専任講師

池田壽和
 金田建夫
 菊地俊美
 木崎章光
 小林鉄雄
 佐藤 彰
 佐藤憲一 理博
 菅沢 均

鈴木詔悦
 長坂宗男 ○
 永嶋誠一 工博 ○□
 戸次直明 理博
 マイケル・スティーブン・ナイ
 バーグ
 水野知昭
 柳沢秀男
 助 手
 藤原雅美 工博 ○

土木工学科

教 授
 赤津武男 工博
 木村喜代治 工博
 寺中啓一郎 工博
 中村玄正 工博
 森 芳信 工博
 研究所教授
 伊東茂富 工博
 杉浦孝三 理博
 松本順一郎 工博
 助教授
 小林秀一 ○
 杉内祥泰
 田野久貴
 浪越 勇 ○
 西村 孝 工博 ○
 原 忠勝 ○
 安田徳輔 ○

専任講師

石井和樹 ○
 五郎丸英博 ○□
 高橋迪夫 ○
 長林久夫 ○□
 藤田龍之 ○
 藤田 豊 ○□
 古河幸雄 ○□
 驚井雅史 工博
 村田吉晴 ○

助 手

渡辺英彦 ○□

建築学科

教 授
 足立和夫 工博
 池田昭男 工博
 大内一雄 工博

大濱嘉彦 工博
 佐藤 平 工博
 谷川正己 工博
 福地利夫 工博
 研究所教授
 荒井昌昭 理博
 助教授
 小栗治男 ○
 狩野勝重 工博
 倉田光春 工博 ○
 黒田浩司 ○
 国分守行 ○
 外山隆吉 ○
 橋本 寛 ○
 師橋勇二
 矢作英雄

専任講師

有賀保二
 出村克宣 工博 □
 長澤 悟 工博
 八町雅康 ○
 松井壽則 □
 三沢好夫 ○
 若井正一 □
 渡沢正典 ○

助 手

千葉正裕 ○□
 土方吉雄 ○□

機械工学科

教 授
 青木 弘 工博
 一色忠夫
 小川 明 工博
 菅野宗和 工博 ○
 佐藤和郎 工博
 土肥 博 工博
 湯浅達治 工博

研究所教授

一色尚次 工博
 伊藤英覚 工博

助教授

小野沢元久 工博 ○
 依田満夫 工博 ○

専任講師

今村仙治 ○□
 岡 憲治 ○

小川 清 ○	本郷 忠敬 工博	加藤 昌弘 工博
河井 宏文 ○	松浦 正博	菊池 光子 工博 ○
佐藤 光正 ○	松塚 勇 ○	後藤 尚 工博 ○
野村 武義 ○	松橋 登喜雄 工博	高木 昭
橋本 純 工博 ○□	助 教 授	研究所教授
橋本 耕吉 ○	大平 脊一 ○	向井 利夫 理博
茂澤 宏 ○	宍戸 敏雄 ○	助 教 授
森谷 信次 ○□	橋本 義久 ○	飯田 隆 工博
柳沼 孝佑 ○	山本 登	尾崎 武二 工博
柳沼 福夫 ○	渡辺 清未 ○	鈴鹿 敏 理博
横田 理 工博 ○□	専任講師	高野 操 ○
渡部 弘一 ○□	上田 剛 ○□	武者 義彦
助 手	尾股 定夫 工博 ○□	専任講師
竹内 彰敏 ○□	鍬野 秀三 ○□	小川 敏彦 ○
長尾 光雄 ○□	杉浦 義人 ○□	佐藤 良和
副 手	長澤 幸二 ○□	野田 吉弘 理博 ○
田村 賢一 ○□	橋谷田 實 ○□	平山 和雄 工博
電気工学科	渡辺 直隆 ○□	柳沼 力夫 ○
教 授	助 手	吉川 義雄
加藤 勝洋 工博	渡辺 紀夫 ○□	助 手
国分 欽智 工博 ○	渡辺 博之 ○□	田中 裕之 ○
小林 力 工博 ○		
長嶋 直之 理博	工業化学科 教 授	(工学部校友会会員の教員には、○(工学部、第二工学部、専門部の卒業)と□(大学院工学研究科の修了)の記号を記入しました。)
藤木 正也	宇野原信行 理博	

[11ページから続く]

—— 橋爪さんは2年生あと2年ありますが、男子が多くて、初めは大変でしたでしょう。今は70人ぐらいで、4,800人中の1.5%だったですかね。

橋爪 今年の1年生には、全学科に入学されたとかで、女子の1年生は30人ぐらいと聞いています。キャンパスにはかなり女性の学生も見かけるようになります、雰囲気もずい分変わったなと最近感じているんですけど……。

佐藤(久) 総会のことなんんですけど、会報で、総会をやるという記事は見るんですけど、いつもどのような方がが集まるのかなあというぐらいで、こちらから行こうと一般会員の方は思わないと思うのですが……。

—— 実際、みなさんが来るんですよ、会員の皆さん。

佐藤(久) じゃ、決ったメンバーとかじゃなくて。

半沢 やもするとその傾向はあります、本来は、みなさんが来るのが当然なんですよ。

佐藤(久) ある程度固まってしまうのでしょうか。

村田 しかし総会はちがいますよ、勝手に来るんですから。また、そうあって欲しいです。

半沢 一度総会に出ると、非常によかったと次回にも出できます。最初の勇気があればよいんですがね。

—— 通常総会は予算がどのように使われたかとか、事業がどうなったとか、要するにこれを皆さん会員の方々にお伝えしたいですから、誰がきてもかまいませんし、会員は出来るだけ来るべきだと思いますね。

武田 佐藤(久)さんは是非来て下さいね。(笑) ただ、あのころは丁度桜が満開で、これがいけないんです。皆さん桜に行ってしまうんですよ。(笑) ちなみに、来年の工学部校友会の総会は、日本大学創立100周年を祝賀する意味もかねて、東京は九段の日本大学会館で開催いたします。ご存知のとおり、総会は校友会の最高の意志決定機関ですから、是非ご出席になられましてご協力下さいますように、この席をかりてお願いいたします。

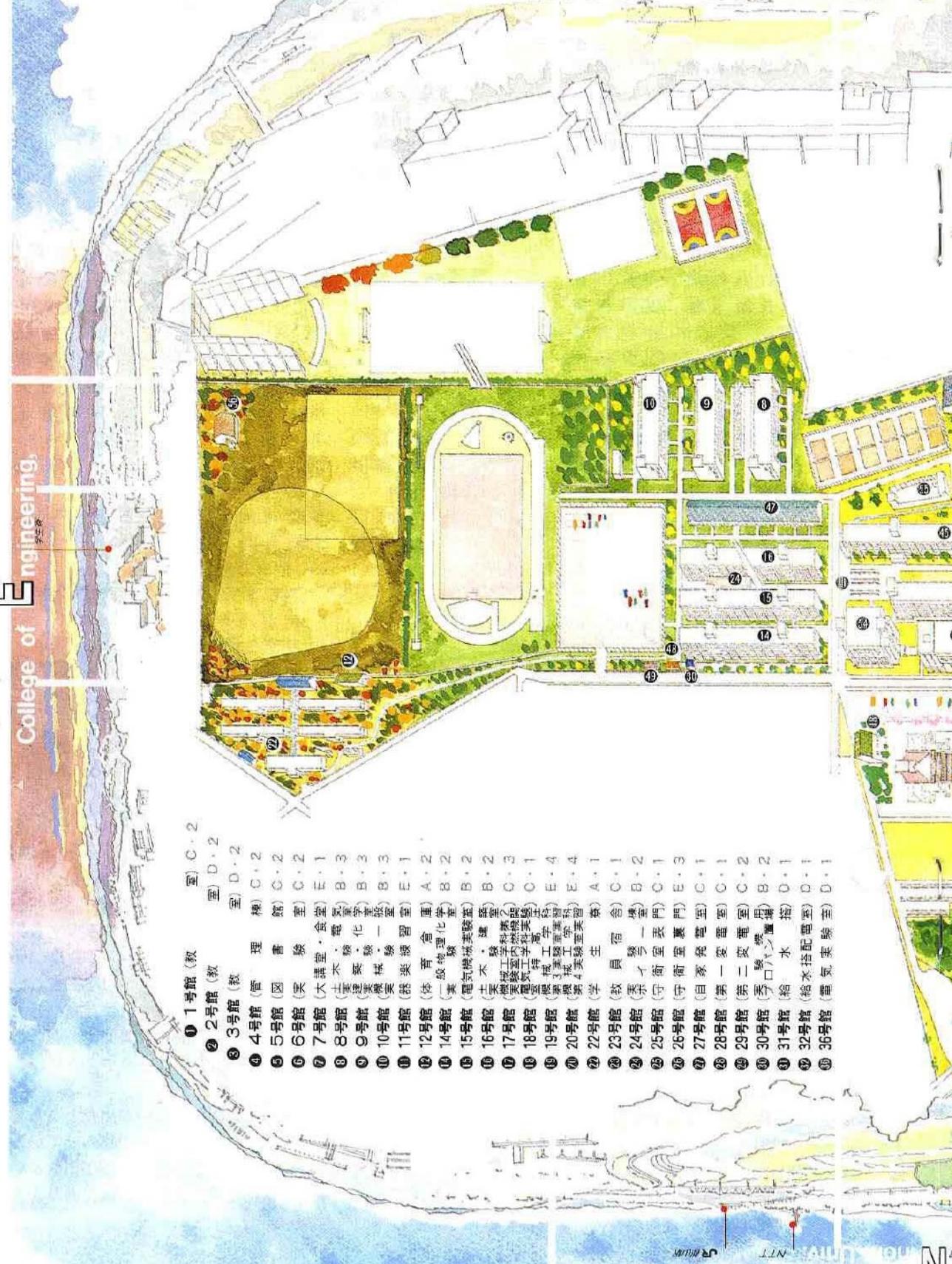
—— 総会のお願いが出たところで、丁度時間ともなりましたので、これで終らせていただきます。本日はご多忙のところ皆様にはご出席をいただき、また貴重なご意見をたまわり、誠にありがとうございました。

(拍手)



佐藤事務局長

日本大学工学部キャン





日本大学創立100周年にあたって

日本大学創立100周年記念事業委員会委員長 柴田勝治

工学部校友会の皆さん、創立30年おめでとうございます。武田仁幸会長を中心に日ごろのご活躍、慶賀にたえません。

想えば昭和22年、旧海軍航空隊跡に創設された学園が、いまや東北地方のハイテクの殿堂として若き科学者を年々世に送り出し、また校友各位の精進ぶりも社会的に高く評価されております。

校友会初代会長の渡辺幸夫氏は「初仕事は全校友の把握と校友会館の建設でした。資金その他いろいろの面で苦労して完成させました。(中略)……この校友会館もすでにとりこわされてなくなってしまい、世の移り変わりを感じさせます。」(工学部30年史)とつづられていますが、先人の足跡は生き続け貴校友会の会員掌握率は80%と高く、今日の隆盛ぶりがうかがえます。特に、毎年行われている校友各位の「母校を訪ねる会」の催しは本学唯一の試みで、以前から注目しております。日ごろから、母校と校友との交流があればこそ、節目ごとにその連帯と団結力が發揮されるわけです。ここに、心からの拍手を送り、この催しの輪を東北の地だけでなく日本大学全体に広めてゆきたいものです。

さて日本大学は今年が創立100周年。人生にたとえれば上寿の年です。明治22年10月4日、時の司法大臣山田顕義の手によって日本法律学校として誕生し、現在14学部、14大学院研究科を擁する一大総合大学に発展しました。創立者・山田顕義伯が提唱された「和魂洋才」を建学の精神として掲げ、このスピリットを先輩から後輩へと継承して築き上げたのが今日の日本大学であります。

いまや校友数は65万余。本学出身の社長数は全国で18,496名で日本一となりました。この実績をステップとして21世紀に向けてさらに飛翔すべく、全教職員が一丸となって取り組んでおります。

意義ある100周年とするため、昭和59年12月に学内組織の日本大学創立100周年記念事業委員会(会長・高梨公之総長、委員長・柴田勝治理事長)が発足、同年4月には全国校友を主力メンバーとする学外組織の同記念事業協賛会(会長・江崎真澄衆議院議員)もスタートし、同年7月12日、東京千代田区三崎町の法学部本館大講堂で両会の“出陣式”ともいうべき合同会合を行いました。

100周年記念事業・行事の諸計画は、実施推進委員会を中心とし、その傘下にある6つの実行委員会(募金、建設、式典、学術講演・国際シンポジウム、百年史及び山田顕義資料編纂、広報)はじめ諸会議、諸機関で

検討を重ね、その実現に向かって着々進んでおります。以下、100周年記念事業・行事について計画及び進捗状況をご報告致します。

〔記念行事〕

全日大人の意氣燃える行事として、下記6項目を実施します。

1. 記念式典並びに祝賀会

創立記念日の平成元年10月4日、東京港区高輪プリンスホテルで式典を挙行し、その後、隣接の新高輪プリンスホテルで5,000名参加の祝賀会を行います。式典には皇室関係者のご臨席を予定して準備を進めており、内閣総理大臣、政・官・財界関係者、校友会関係者、同僚大学及び海外学術交流提携校の総長夫妻、その他各界の方々をご招待する予定です。

2. 東京文京区護国寺で墓前祭

学祖顕彰の行事として、創立者・山田顕義伯の墓所の整備を進め、記念式典に先立って学祖の靈のご冥福を祈り、100周年の慶事をご報告します。

3. 山田顕義終焉之地記念碑の落慶式

山田伯が急逝させた兵庫県生野町の生野銀山跡地に白御影石の記念碑を建立し、本年5月除幕式の予定。

4. 100年史及び関係書籍の発行

①「日本大学100年史」=全5巻(通史4巻及び年表)の構成で4,000部発行。

②「山田伯爵家文書」=全16冊。山田伯の書簡及び政府要人から届いた書簡、その他公文書を含む貴重な資料の集成です。発行部数は1,000部。

③「日本大学100年史年表」=7,000部発行。

5. 日本大学校友会史の発行

誌名は「日本大学百年のあゆみと校友活動」。A4版、約450頁で発行部数は8,000部。本年6月発行予定。

6. 学術講演・国際シンポジウムの開催

①国際シンポジウム関係=総長指定の「地球型社会の総合的研究」を中心テーマとして、学内外や海外から世界的に著名な学者、研究者を招いて開催されます。この総合的研究には4つのプロジェクトがあります。すなはち(1)バイオテクノロジーの応用に関する総合的研究(2)宇宙科学に関する総合的研究(3)アジア・太平洋地域の潜在力と世界的貢献の可能性(4)現代日本文化の特質に関する研究などです。グローバルな視点から21世紀へ向けて世界が進む方向を模索しようという試みで、既にシンポジウムは進行中で各界の注目を集めています。

この総合的研究に加えて「21世紀におけるBiomationの展開」をテーマとするシンポジウムの開催(平成2

年5月予定）と、「第2回国際微量元素医学会議」（本年8月）の日本大学後援などがあり、本学の研究成果を広く内外にアピールいたします。

②学術講演会関係=上記シンポジウムに参加する有名な学者、研究者を講演者として全国5カ所で開催します。開催予定地は校友会活動が活発な都市並びに付属高校を拠点とするもので、大阪・山口・宮崎・佐野・盛岡が予定されております。

〔記念事業〕

国際化時代を反映して、21世紀を先取りするような諸計画を進めております。

1. 日本大学創立100周年記念基金（20億円）の設定

海外からの留学生を対象とする奨学金制度の事業資金及び国際的学術研究活動を対象とする研究費助成制度の事業資金に充てるため、この基金を設定します。この基金は、今後増加が予想される欧米先進国をはじめ発展途上国からの留学生・研究者に『魅力ある日本大学』とするための一方法で、留学生の日本語教育はじめ日本文化研究の推進を図ります。換言すれば『留学生10万人時代』に対応する本学の基本姿勢とも言えます。

2. 日本大学創立100周年記念国際会館の建設

国際学術交流の殿堂として、日本大学のイメージアップを図る会館です。建設予定地は東京世田谷区桜上水、文理学部前の野球場用地で地下1階、地上8階建、延14,300m²を予定しております。

同会館には国際交流センター並びに学術研究センター（主として留学生を対象とした大学院独立研究科）が収容されます。施設は多目的ホール、国際会議室をはじめ中・小の会議室、研究室、資料室を設け、開かれた大学として地域社会及び学生も利用できるようなものとします。

3. 学術情報センター（資料保存庫等を含む）

本学が所蔵する文献資料をコンピュータ処理し、迅速的確に学術情報を提供する一方、学外の関係機関ともリンクできるよう計画中。この情報は本学関係者はもちろん、海外からの研究者にも提供されます。

4. 総合グランドの建設

その他の記念事業・行事としましては、広報関係で①日本大学100年（記念誌）の発行②記念映画の製作③日本大学展の開催④100周年ニュースの発行。学生関係では①日本大学創立100周年体育大会②100周年記念演奏会③'88シムシャール村夏季交流大学などがあり、学祖関係では創立者・山田顕義伯を主人公とする歌舞伎座公演も企画されております。

以上の記念事業・行事を円滑に推進するため、記念事業委員会では既にシンボルマーク並びにキャッチフレーズを制定し、記念テレホンカードも10万枚以上発行して、校友各位にも広くご活用いただいているところです。

以上が100周年記念事業・行事のあらましですが、その基盤はなんといっても資金問題です。どんなによい企画があっても、資金が集まらないと実現できません。幸いにして100周年募金も円滑に進んでおりますが、校友各位のご協力なしでは事の成りがたい実情にあります。この点、なにとぞご理解をいただきまして、ご協力ご援助賜りますよう、紙面をかりて切にお願い申し上げます。

私は昨秋、第24回オリンピック・ソウル大会に日本選手団長として参加しました。列国の強豪選手に伍して日本選手の成果はどうかが不安でした。でも、そのとき、選手たちを「メダルの多い、少ないよりも精いっぱい戦え。感動を生む試合をやってくれれば満足だ」と励ました。その言葉に、日大勢は立派にこたえてくれました。

やがて爛漫の春が訪れます。正門前の桜並木も、工学部校友会30年を祝って、いっせいに花開くことでしょう。その感激を、夢を、日本大学創立100周年に向けて、みんなで大輪の花を咲かせようではありませんか。

最後に、工学部校友会のご発展を祈り、重ねて皆さまの絶大なご協力をお願い致します。

百 慶 祝

日本大学創立 100 周年

創立 100 周年記念事業の資金を募集しています。

事業を成功させるため、校友各位には特段のご協力をお願い致します。

日本大学工学部校友会

是非ご賞覧を!!

映画『マイフェニックス』

日本大学100年の歩みを、若人の夢にのせて語る、日大人必見の映画

日本大学工学部校友会略年史

昭和

22年4月1日	日本大学専門部工科を東京より郡山に移設	49年11月2日	旧校友会館建物を学部の火災実験に使用
24年4月1日	日本大学第二工学部として発足	50年4月20日	第7代会長 松山光克（土3回卒）
24年4月1日	初代学部長 横地伊三郎教授	50年10月20日	昭和50年版総合会員名簿を発行
25年3月25日	専門部工科第1回生卒業	52年2月	古田重二良先生銅像建立寄付金募集
28年3月22日	第二工学部第1回生卒業	52年10月28日	古田重二良先生銅像除幕式
32年7月3日	第二工学部開設10周年記念式典	52年10月29日	工学部30周年記念式典
33年5月22日	日本大学第二工学部校友会創立	53年4月22日	第8代会長 武田仁幸（土3回卒）
	初代会長 渡辺幸夫（土1回卒）	53年8月9日	校友会事務局を工学部30周年記念館内に移転
34年5月17日	校友会館の新築落成式	53年12月20日	校友会創立20周年記念の校友会報記念特集号（第34号）を発行
	第2代会長 関根昭一（電2回卒）	54年4月1日	第5代学部長 広川友雄教授
35年9月20日	バス待合室を校内敷地に設備し学部へ寄贈	54年5月12日	会員名簿の電算機処理事業を開始
35年10月15日	校友会報第1号を創刊	55年7月15日	工学部校友会九州支部結成
35年11月1日	あかしや育英奨学生制度をつくり、はじめて奨学金を支給	56年4月18日	会則を改正して会員に専門部工科（郡山）卒業生を専門部会員として迎えた
36年3月1日	学生への宿所斡旋を本会事業として実施		役員の任期を3年に改正
38年3月24日	東京地区校友の懇親会を東京で開催	56年11月3日	工学部と共に「校友の母校を訪ねる会」（第1回）を開催
39年5月27日	第3代会長 渡辺幸夫（土1回卒）	57年8月10日	54年5月から実施の会員名簿の電算機処理事業が完成
	終身会費制を新設	57年10月1日	昭和57年版総合会員名簿を発行
39年7月21日	校友会館を構内敷地の東側に移設	58年4月23日	通常総会を新装の日本大学会館（東京）で開催
40年8月20日	昭和40年版総合会員名簿を発行	59年7月17日	第6代学部長 本郷忠敬教授
41年4月1日	日本大学第二工学部を工学部と改称	60年4月20日	通常総会を東京の日本大学会館で開き、統いて倉田博・広川友雄・外木有光の3先生の謝恩会を行った。
	第二工学部校友会も工学部校友会と改称	60年7月17日	工学部校友会四国支部結成
41年5月8日	第4代会長 根本年雄（機4回卒）	62年9月1日	昭和62年版総合会員名簿を発行
41年10月25日	郡山学園開設20周年記念式典	62年10月22日	工学部開設40周年記念式典
42年8月5日	第2代学部長 広川友雄教授		平成
43年10月30日	第3代学部長 野引 勇教授	元年3月1日	校友会創立30周年記念の校友会報記念特集号（第52号）を発行
44年4月20日	第5代会長 武田仁幸（土3回卒）		
45年7月	母校に寄贈の大時計および時計台設備のため校友から寄付金募集		
45年12月1日	昭和45年版総合会員名簿を発行		
46年1月14日	「北心寮」跡に記念石を寄贈		
46年1月16日	時計台の竣工除幕式		
46年4月10日	工学部校友会東京支部結成		
47年4月23日	第6代会長 太田雄八郎（土3回卒）		
	あかしや奨学生制度を改め、あかしや図書供与費を工学部に援助することにした		
47年9月2日	工学部校友会東海支部結成		
48年4月26日	校友会事務局を工学部52号館に移転		
48年5月1日	第4代学部長 外木有光教授		
49年3月19日	鈴木勝総長の揮毫を刻記した記念石建立資金を学部へ贈る		
49年6月4日	日本大学工学部校友会旗を作成		
49年7月20日	工学部校友会北海道支部結成		

工学部校友会会員数

(昭和63年10月現在)

		土	建	機	電	化	計
正会員	学 部	5,950	7,836	6,117	5,575	2,685	28,164
	大 学 院	62	155	65	41	22	345
専門部会員		96	70	59	64	74	363
学生会員	学 部	992	1,034	1,019	1,126	704	4,875
	大 学 院	16	28	24	12	4	84

昭和63年度通常総会報告(第31回)

標記の総会は、昭和63年4月16日(土)、午後2時より5時30分まで、日本大学郡山研修会館で開催されました。遠く北海道や九州からの参加もあり、大いに盛り上りました。

議長 佐藤幸助(土3)

議事録署名人 石井和樹(土13)、加藤定信(土16)

書記 鈴木守(電16)、森合信次(機19)

議事: 報告第1号 昭和62年度会務報告

承認第1号 昭和62年度一般会計収支決算

承認第2号 昭和62年度特別会計収支決算

議案第1号 昭和63年度事業計画

議案第2号 昭和63年度一般会計収支予算

議案第3号 昭和63年度特別会計収支予算

議案第4号 役員の欠員選出

議案第4号は副会長の武藤貞泰君(土木8回)が63年2月に逝去されたことにともなう副会長の選任と欠員について次の通り決定された。

副会長 佐藤吉新(土6) 株式会社水道コンサルタント

理事 野尻大五郎(化16) 郡山市水道局

総会後の懇親会では、工学部の教職員も参加され、和気藹々(わきあいあい)に話題が進み、本年の活躍を誓いました。

昭和62年度特別会計収支決算書

昭和62年版総合会員名簿発行事業

歳入					
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	附記
総額金	1 前年度繰越金	3,164,380	3,164,380	0	
	計	3,164,380	3,164,380	0	
名簿代金	2 名簿代金	2,700,000	5,737,000	3,037,000	
代金	計	2,700,000	5,737,000	3,037,000	
広告料金	3 広告料金	400,000	750,000	350,000	
雜入	4 雜收入	5,620	6,000	380	
	計	405,620	756,000	350,380	
	合計	6,270,000	9,657,380	3,387,380	(△ 154,000)

歳出					
款項	種目	予算額	成用増減額	予算現額	決算額
事業費	1 費全	150,000	0	150,000	130,000 △ 20,000
	2 消耗品費	350,000	0	350,000	340,750 △ 9,250
	3 印刷製本費	3,840,000	0	3,840,000	3,834,290 △ 5,710
	4 通信運搬費	1,430,000	0	1,430,000	1,411,725 △ 18,275
	5 杂料費	400,000	0	400,000	387,760 △ 12,240
	6 雑費	50,000	0	50,000	0 △ 50,000
	計	6,220,000	0	6,220,000	5,104,525 △ 115,475
予備費	7 予備費	50,000	0	50,000	0 △ 50,000
	計	50,000	0	50,000	0 △ 50,000
	合計	6,270,000	0	6,270,000	5,104,525 △ 115,475

歳入額 9,657,380円
歳出額 6,104,525円
差引額 3,552,855円を翌年度一般会計へ繰越するものとする。

昭和62年度一般会計収支決算書

歳入					
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	附記
会費	1 会員会費	10,000	11,350,000	11,350,000	
	2 入会金	10,000	11,830,000	11,829,000	
	計	20,000	23,180,000	23,170,000	
施設金	3 会場使用料金	23,239,122	23,239,122	0	
	計	23,239,122	23,239,122	0	
総入金	4 基本財産売上純入金	2,100,000	2,100,000	0	
	計	2,100,000	2,100,000	0	
雜入	5 稼金利子	400,000	312,733	△ 87,267	
	6 領員負担金	300,000	298,604	△ 1,396	
	7 管理費	878	252,000	251,122	
	計	700,878	853,337	162,459	
	合計	26,060,000	49,392,459	23,332,459	(△ 189,556)

歳出					
款項	種目	予算額	成用増減額	予算現額	決算額
事務費	1 給料手当	4,130,000	0	4,130,000	4,127,704 △ 2,296
	2 保険料	480,000	0	480,000	452,618 △ 27,382
	3 交通費	520,000	△ 25,578	494,430	488,000 △ 6,430 旅費へ
	4 旅費	60,000	25,578	85,570	85,570 0 交通費より
	5 交際費	400,000	0	400,000	382,600 △ 17,400
	6 消耗品費	90,000	△ 14,850	75,150	70,932 △ 4,218 印刷本費へ
	7 書類費	130,000	0	130,000	130,000 0
	8 印刷製本費	130,000	14,850	144,850	144,850 0 消耗品費より
	9 通信運搬費	300,000	0	300,000	265,036 △ 34,970
	10 旅宿料	10,000	0	10,000	0 △ 10,000
	11 光熱水費	40,000	0	40,000	30,000 △ 10,000
	12 電費	140,000	0	140,000	128,215 △ 11,785
	計	6,430,000	0	6,430,000	6,395,510 △ 124,481 (△ 189,556)
事業費	13 租機料	500,000	0	500,000	490,000 △ 100,000
	14 会報発行費	5,870,000	△ 100,000	5,770,000	5,795,768 △ 64,232 会員活動費用へ
	15 会員管理費	1,930,000	△ 122,600	1,807,400	1,734,600 △ 52,800 会員登録料金
	16 名簿作成費	420,000	0	420,000	407,265 △ 12,735
	17 下宿料	10,000	0	10,000	3,910 △ 6,090
	18 図書借与費	500,000	0	500,000	500,000 0
	19 式典費	1,380,000	22,600	1,302,600	1,302,600 会員登録料金
	20 母校訪問費	200,000	0	200,000	195,515 △ 4,485
	21 負担補助援助費	1,350,000	500,000	1,350,000	1,350,000 △ 1,000,000
	22 座賃	430,000	0	430,000	407,676 △ 22,330
	計	13,650,000	300,000	13,990,000	12,727,328 △ 1,262,672 (△ 189,556)
会費	23 送会費	470,000	0	470,000	437,160 △ 32,840
	24 会員会費	400,000	0	400,000	370,189 △ 29,811
	25 連絡協賛会費	680,000	△ 4,640	675,360	547,990 △ 127,770 連絡協賛会費へ
	26 座賃	730,000	4,640	734,640	734,640 0
	計	2,280,000	0	2,089,579	195,421 (△ 189,556)
積立金	27 総会運営費等積立金	200,000	0	200,000	252,000 △ 8,000
	計	200,000	0	200,000	252,000 △ 8,000
予備費	28 損立金	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000 0
	計	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000 0
	29 予備費	400,000	△ 300,000	100,000	0 △ 100,000 会員登録料金へ
	計	400,000	△ 300,000	100,000	0 △ 100,000 会員登録料金へ
	合計	26,060,000	0	26,060,000	24,374,426 △ 1,685,574 (△ 189,556)

歳入額 49,392,459円
歳出額 24,374,426円
差引額 25,018,033円を翌年度へ繰越するものとする。

財産の状況(昭和63年3月31日現在)

基本財産	引当財産	運用財産	合計
6,086,155 円	2,982,282 円	28,570,888 円	38,239,325 円

第8回「母校を訪ねる会」開催

昭和63年10月23日(日)、第8回「母校を訪ねる会」が工学部と校友会の共催で開催された。今回は第16回卒業生619名が対象でしたが、参会者は16回生の94名のほかそれ以外の卒業生17名も加わり、総計111名の大賑わいでした。

新装された情報研究棟の8階のスカイラウンジで軽食をとる校友もあって、遠く安達太良を眺めながら、20年前の青春の日々を懐古する風景もありました。折りから開催中の学部祭(北桜祭)の見物、会議室での懇談会と懇親会ともりたくさんの行事に参



加されて、明日へのエネルギーを蓄積された様子でした。

その前日には、土木16回、建築16回、電気16回、化学16回、土木7回生らがクラス会を開かれ、そちらの方も大いに盛り上ったようでした。

第6回『桜三九会』を開催

高橋 迪夫

土木工学科39年度入学同級生の第6回同級会『桜三九会』が、「母校を訪ねる会」の前日の10月22日に郡山国際ホテルで開催されました。

当日は、恩師の木村喜代治先生、杉内祥泰先生、村田吉晴先生においでいただき、北海道あるいは四国、関西方面の遠方からの参加者も加えて、41名という多くの会員の出席により、大変盛大な会となりました。

(なお、翌日の『母校を訪ねる会』の出席者を加えると、両日合せて46名の会員が郡山に集つことになります。)卒業以来初めて再会する者も何人かおり、懐しい学生時代の思い出話に、あるいはそれぞれ各方面で活躍中の近況報告にと、時間の経つのも忘れて大いに話が弾みました。

最後に全員で校歌を力強く合唱し、次回は3年後に京都で開催することを約して散会致しました。

なお、今回の集りを記念して、土木工学科の退職された先生方の記念写真を土木教室にお贈り致しました。

(土木工学科第16回卒 日本大学工学部)



「母校を訪ねて」

芦立 浩

20年振りに訪れた母校のたたずまい、郡山の街並は、我学生時代の思い出を見つけるのが困難な程見事に変貌していました。僅かに正門の桜並木、管理棟、1・2号教室などにかすかな記憶をつなげられる中で、変わなかったのは迎えてくれた先生諸氏と全国から集まつま旧友の笑顔でした。

よく環境は人を造ると申しますが、経営者、役人、先生、サラリーマンそれなりに社会の荒波にもまれた風格が学校にも旧友にも出ており、当時の思い出と对比するのが面白く、又懐かしくもありました。

今回の集まりが、単なる20年振りの再会に止まることなく、今後の母校の発展を担う一つの歯車としての認識を深めたことと、貴重な人脈との情報ネットワークを太くしたことが本来の大きな目的、成果ではなか

ったかと解釈しております。

最後にこの会の為に尽力された工学部・校友会の皆様方の御苦労に感謝いたしますと共に、今後の発展と又の再会を期して感想といたします。

(土木工学科第16回卒 大成建設㈱)

30周年記念の土木科同期会開催

西山 庄次

土木工学科の昭和30年度入学生は、卒業前の33年12月に分散会をした思い出の地の磐梯熱海温泉に「再度逢おう」と昨夏以来準備を重ね、「第8回母校を訪ねる会」への参加も兼ねて、同期会を開いた。

北は北海道、南は三重県から集まった23名の30年の歳月をかけた髪は種々に変化し、わずかに青春の痕跡を残した友もいたので、瞬時の判別に迷った。

しかし、それぞれの顔々は、学生時代そのままに、宴会では、過ぎ去った1万余日の日々がなかったかのよ

うに、思い出を鮮明に、また加除して、翌朝も迎え酒を酌み交しながら、尽きぬ語らいを続けた。けれども時刻は冷酷、またの逢う日を誓い、各自別れの挨拶をして宿を出て散会、母校に向った。

ただ残念なことは、既に亡き友が4名にのぼり、全員で黙禱し、冥福を祈ったことである。

(土木工学科7回卒 株竹中土木)



北心会について

中島 康之

北心会は昭和35年より北心寮の卒業生を送る会として、卒業式の日に、東京で行なわれていましたが、北心寮もなくなって俊英学寮になってしまい、今は北心寮に4年間在寮していた人たちが集って、昔話をするという会であります。

63年度は、校友会総会の日の4月16日を選び、郡山市の開成山の熱田屋において北心会の懇親会を開きました。北は青森から南は阪神方面からと総勢23人が集まりました。校友会長の武田氏にも参加いただき北心寮の昔話を聞き、また高野先輩からは寮歌制定の頃の誕生史を聞き、楽しい一日を過しました。最後に昔にかえって校歌と寮歌など大きい声で歌って散会しました。

北心会としては、寮がすぐではなく、会員の増員もありませんので、1年間でも北心寮にいた人にも集まつてもらって盛り上げたいと思っています。事務局に連絡いただければ次回の案内をさし上げたいと思います。

事務局：東京都千代田区紀尾井町3-23 文春ビル
8F 伊藤喜三郎建築研究所内 日本大学北心会
事務局 ☎03-263-1481 (建築学科第13回卒業)



建築第6回卒クラス会

春井義嗣・樋野利介・大平昌男

建築学科昭和32年度第6回卒のクラス会を、卒業以来30年目の節目と云うことで、かつての恩師の細谷隆二先生を囲んで、63年5月29日に川治温泉で行ないました。先生もはや72歳と云うことでしたが、歳に見えずいまだ大変お元気でした。

当日は前日までの雨も上り、雨に洗われた山々の新緑もまぶしいくらいに輝いている中を、さんさんごごと集ったかつての若人たちとは、宴会が始まるのを待ちきれず、各自の部屋で酒盛りが始まり、昔話に花が咲き、全員が集まりいよいよ宴会が始まると、わが子の嫁さがしやら、むこさがしと花が咲き、夜の更けるのも忘れて楽しい一夜を過しました。

次の日は有志一団で、先生を囲み、鬼怒川カントリークラブで、昨夜の名残り酒の勢いを借りて、ゴルフざんまいの一日を送り解散いたしました。

(建築学科第6回卒業 春井：松戸市役所、樋野
：㈱莫建築事務所、大平：住宅都市整備公団)



建築第12回卒クラス会

辻 順 蔵

桜が満開の去る63年4月23日、日本大学郡山研修会館において、建築学科昭和38年度第12回卒のクラス会を開催いたしました。

当日は、大学から谷川正己教授をはじめ師橋勇二、外山隆吉、黒田浩司の各助教授の4名の先生方をお迎えしました。私共卒業生は20名出席しました。

会は夕方から始まり、先生方から大学の近況を拝聴し、我々は参加者全員が自分の現況を報告しました。その後、懇親会に入り、在学中の思い出、大学の発展の状況等々に話がはずみ、時間の経つのを忘れました。

この会に先立ち、ゴルフの好きな連中は、朝から楽しんだ後に懇親会に参加、又希望者は、翌日、谷川先生のご案内で大学を見学しました。

久々に母校を訪れ、校内の整備状況のすばらしさに感嘆いたしました。特に情報研究棟は最新の技術の粋を集めた情報処理研究とコンピューター実習の教育と研究の中枢になると伺いました。ほんとにすばらしいものです。

最後に、今回の同窓会にご尽力いただいた、谷川先生はじめ幹事の方々に深く謝意を表わしたいと思います。
(建築学科第12回卒 住宅都市整備公団)



北海道支部総会を終えて

支部事務局長 松 久 房 夫

北海道支部総会が去る63年7月16日、札幌市中央区のアートプラザホテルで開催されました。校友会本部から村田事業部長、大学からは国分教授らがご来賓として出席され、総会を盛り上げていただきました。

支部では、去年度の校友会本部の名簿に基づいて、従来の支部名簿の改正と印刷という事業を行ないました。さらに、支部活動については、去年度は、佐々木支部長を中心として、校友ゴルフコンペの開催を恒例化するなど、活動の拡充が計られたところであり、佐々木支部長の校友会活動への熱意が花ひらいた年がありました。

本年度は支部規約に基づき、役員改選年度に当つております、総会にて、3年間、支部長としての重責をはなされた佐々木支部長に代わり、松山新支部長(前副支部長)が選出されました。新支部長の方針としては、

校友会本部並びに大学との交流を拡大する一方、佐々木前会長の築いた支部活動の一層の充実を図ることなどをされ、万場一致で選任されました。

本年度の総会の特徴としては、卒業年次25回以降の若々しい校友の参加が多く、今後の校友会支部活動の発展の力となると期待されるところであります。

総会には約50名の校友の方々の参加がありました。主に札幌近郊の校友が多い中、道東知床の街の斜里町から石井先輩が、また十勝ワインの街の池田町からは成田先輩などの参加をいただき、総会が大いに盛り上りました。

総会のしめくくりとして、快い酒の酔の中、恒例の「若きエンジニア」を、船越先輩のリードで合唱し、若き日に通った大学のキャンパス、阿武隈川、そして磐梯山などに思いをはせました。最後に、それぞれの活躍と、健康をたたえ、來年度の再会をかたく約束しておひらきといたしました。

(土木工学科第19回卒 札幌市役所下水道局)



第4回四国支部総会

副支部長 永 井 次 郎

63年7月16日、校友会本部より武田仁幸会長をお迎えし、前回までは高松市で開催されていました総会を初めて松山市で開催いたしました。

四国四県から会員36名が出席し、郡山から遠くはなれた松山の地より、母校のスライド、発展した郡山市のビデオを見る機会をもち、盛会に終りました。

遠くみちのくの地に思いをはせ、「母校を訪ねる会」に出席しようと云う声が多く聞かれました。

(建築学科第14回卒、株門屋組)



和食の貯蔵について



松下冷機株技術センター

桑名茂司

1. はじめに

食べ物の心配もなんとか無くなつた、昭和20年代後半に、小林巖先生、広川友雄先生……の先生方から教えて頂きました。当時は日大第二工学部の時代で、安積永盛から“チントリ橋”を渡ってアカシア並木の中に自然に出来た小路を通つた思い出があります。専門の電気に進み、卒業研究、それに世の中の事も菊池秀之先生から教えて頂きました。

今回、当時の良き先輩であった国分欽智先生から校友会報に原稿を書く様に、とのお話があり、私共のささやかな仕事を何かのお役に立てばと思って筆を取りました。

2. 食糧事情

私はナショナル電気冷蔵庫を中心に製造販売している松下冷機に入社し、冷蔵庫に使用する電気部品の研究開発を行つていきましたが、次第に冷蔵庫の中に入れられる食品がどの様にしたら、上手に貯蔵出来るのか調べている内に深入りしてしまった様です。

大阪府立大学の園芸利用教室、岩田先生の所で約1年勉強させて頂き、様々な教科書にない貯蔵の新しい分野を開拓することが出来ました。

さて、日本は幸いなことに海外に輸出する工業製品があったため、今日世界中から、考えて見れば贅沢な食糧を頂くことが出来る様になったと思います。ヨーロッパ、アメリカの農業生産と、日本の農業生産を比較しても生産性や価格面でも、とても戦える状況にはありません。人類の歴史は飢餓の時代が多く、食糧を求める先祖は大変な苦労をして來た様で、今日の日本の状況がいつまで続けられるのか非常に心配なのです。穀物類の消費が減少し、腐り易い、肉・野菜・果物類の生産が増加し、年間を通じいつでも食べられる旬のない時代になって來ました。この反面、これらの腐敗し易い食物は、生産量の20%~60%が捨てられている現状なのです。耕地面積の拡大はむずかしく、農業の飛躍的生産増加は望めない状況下にあって、食物を出来るだけ捨てない様に貯蔵する技術が可能になれば、それだけ耕地面積を増し、生産を高めたことと同じになります。人口増加に対応し、それだけ人々を養つてゆけることになります。食べ物を大切に貯蔵する意義はこの様なことから出て來ているのです。

仏教が定着した奈良時代でも今日のチーズ・バターがあり、野菜類もすでに栽培され始め、食生活も一部の人々はオンザロック、カキ氷を夏に食べるなど、相当なものがあったと最近奈良市内で発掘された資料が示しています。しかしこの様な食生活はごく一部の人々で、一般の人々が今日の様にどんな所でも鮮魚、お刺身が食べられる時代になったのも昭和40年代頃からだと思います。

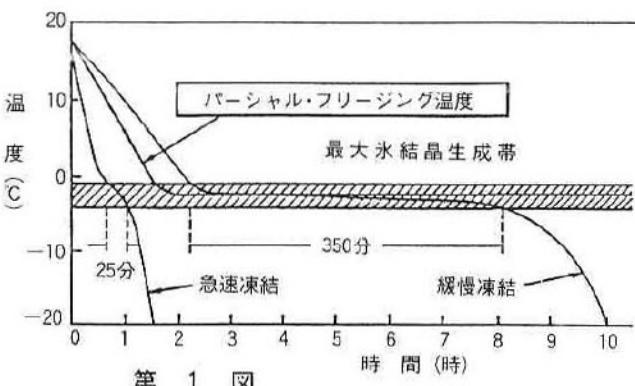
貯蔵技術（冷蔵）が普及する以前は塩干藏品を中心であったのです。

3. パーシャル・フリージング

私共の冷蔵庫にTV等でPRさせて頂いた、パーシャル・フリージングは1965年カナダのバンクーバー水産研究所・トムリンソン氏により提唱されました。銀鮭が一時期に多量収穫され、加工場の処理能力の問題から、一時貯蔵する必要があり、海水を-2°C~-4°Cに冷却し貯蔵する研究を行つていました。

この結果は失敗でしたが、日本の農水省・東海区水産研究所では細氷に塩を混入し-3°Cの温度をつくり実験していました。昭和52年に私共の手作り冷蔵庫で-3°C空気中の貯蔵する工夫をしたのが始まりです。

冷凍のテキストには必ず第1図の様な図が記載されていて食品を貯蔵する時は最大氷結晶生成帯は可能な限り速く通過する、とされています。



第1図

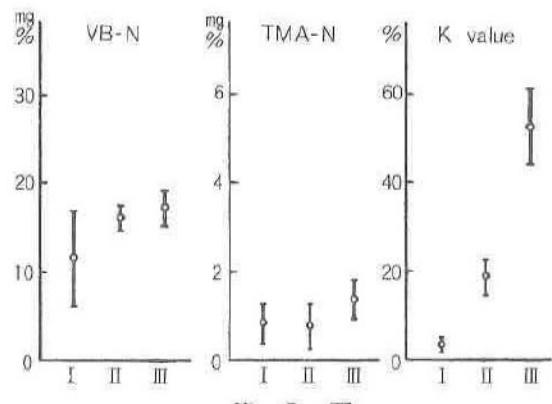
つまりこの最大氷結晶生成帯は貯蔵には最悪の条件なので食品の味、鮮度が悪くなると云つた理論です。ところが、この温度帯の中で実際に貯蔵して食べた、と云う研究もなければ、テキストを書いた大先生に聞

いても頭の中で考えている話だけの答しか得られない状況でした。パーシャル・フリージングはこの最悪とされている温度条件の中で貯蔵するのです。わずかずつではありますが東海区水産研究所の一部の研究成果から、又各種鮮魚、魚以外の加工食品、調理した食品などについて第一線で活躍している現場のシェフを始め、味を大切にしている方々の協力を得て実証実験をつみ重ねることが出来ました。

昭和59年によく一般家庭用冷蔵庫にパーシャル・フリージング機能を付けたものが発売することが出来、新たな展開が始まりました。

鮮度の数値化も研究段階で非常に問題となります。即ち日本の魚は刺身、和食の場合“生きの良さ”が大切でこれを表示するものは魚の死後に内部で発生する生化学的変化“K値”が一番良く合う実用的な尺度となりました。

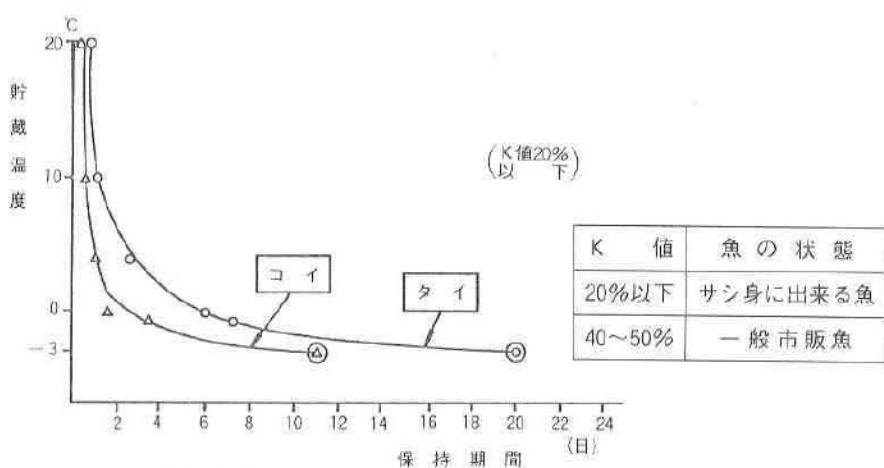
$$K\text{ 値}(\%) = \frac{H_x R + H_x}{ATP + ADP + IMP + H_x R + H_x} \times 100$$



第2図

このK値が実用的尺度であることを示したのが第2図で、Iが即殺魚(5%)、IIが刺身用魚、スシネタ用でK値が20%以下、IIIは一般魚屋で焼魚、煮魚用として販売されている60%程度のものと明確に区分表示されます。昔から“鱈の沖汁”とか“鰯の生腐れ”“腐っても鯛”など魚に関連した云い伝えがあります。K値測定結果これらの云い伝えは正解で、それぞれの魚の貯蔵性を良く表わしています。

温度により貯蔵する日数が変って来ますがこの状況を第3図にコイとタイの例で示しました。0℃で貯蔵するよりも-3℃の方が刺身の貯蔵日数が非常に延長されています。



第3図

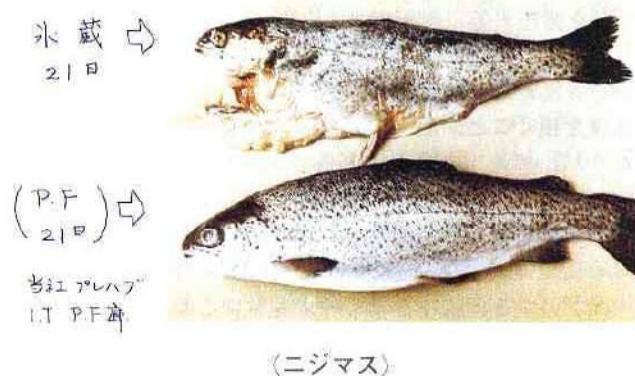
4. 実用化状況

パーシャル・フリージングを活用した食材の実用化には、数多くの方々に協力して頂き今日の様な状況まで展開することができました。

ここで実際に利用されている例を各分野から一部をお伝えします。

《鮮魚類》

パーシャル・フリージングの初期はコイ、ニジマス、アユ等の川魚が中心でした。長野県地方では川魚の消費も多くスーパー・マーケットでも販売されていますが、池を利用したコイ、ニジマスの生産も多く、他県にも出荷しています。この地方で鮮魚店を経営するK店ではコイを1週間程度貯蔵しても味が変わらないパーシャル・フリージングに着目し活用されています。



〈ニジマス〉

福島県の山中で温泉旅館を営むM社長は、山間部のため冷凍食品に頼ることが多かったが、手間がかかり、特に急な宴会には間に合わない。又コイのあらいは数時間で変色してしまい使えなくなるので、直前に調理し出さなければならず、大変な人手と時間がかかるっていました。パーシャル・フリージングはこの様な問題点を解消してくれた上で、計画的な調理が少人数で効率

良く準備出来、さらに味が良くなることがわかり喜ばれています。

日本最北端にある礼文島の農水省水産試験場では地元の要望により、“生ウニ”の貯蔵実験を行い、これまで冷蔵貯蔵と薬品処理で約1週間しか貯蔵出来なかつたものを、風味をそのまま1ヶ月貯蔵出来ることが実証されました。

北海道斜里で水産業を営むA氏は“生ウニ”その他鮮魚をパーシャル・フリージングを利用した経営をされ、“これで借金が返せる”とのことでした。

大阪で炉端焼店を営むI氏は冷凍魚を使用していますが、解凍に時間がかかり、客が予想より少ない場合は解凍した魚類は日持ちしないので、捨てなければなりませんでした。現在ではパーシャル・フリージングにより安心して使え、更に、少し余分に仕入れられるので、ネタ切れの心配もなくなり経営面も良くなっています。

《鶏・畜肉類》

山梨県の寿司S店の主人は茶わん蒸し用鶏肉が腐り易く、メニューに出せない時がありました。廿エビは使うだけ毎日お客様の予想をしながら解凍しなければならず大変でしたが、パーシャル・フリージングを使うことにより、これらが解決出来、毎日食材の鮮度のことで精神的にイライラしていたが、安心しメニューとして出せる様になったということです。

京都郊外山中にある“ほたん鍋”で評判のB店では猪を自分で仕留め調理していますが、貯蔵中お客様がないと自家用となってしまうので困っていましたが、パーシャル・フリージングにより従来の2倍程度、貯蔵期間を延長出来ることが実証され、味の良さも変わらないと好評でした。

《調理食品類》

伝統的な京料理で有名なS店では調理長が熱心に検討した結果、刺身ばかりでなく、シンジョウなど少し加工したものにも向いているため実用化しています。

K料亭では独自のダシ汁、半調理品などに適用し、科学調味料を使わない道具として、又調理した状態で貯蔵出来るので素晴らしい機能だ、と評価され様々な食材に活用されています。

東京六本木にあるイタリア料理で有名なA店では、本場仕込みの料理を提供していますが、自身の魚、生肉の貯蔵はパーシャル・フリージングで行っています。イカの味の良いシーズンにイカのソースをつくり、ストックするとか、酸味の少ないホワイトソース、ブルーウンソース類にも有効利用されています。

京都木屋町四条で若い客層に人気のある板前割烹K店はパーシャル・フリージング初期の段階から実験に協力頂き、鮮魚以外の分野にも工夫し、メニュー展開されています。ボイルしたタコ・エビの類からデザート用シャーベットまでパーシャル・フリージングによ

る好結果を生かされています。

関西地方で焼鳥チェーンを120店以上展開しているH社では、焼鳥を串刺し、焼けば良い状態にした半加工品を各チェーン店に配送していますが、パーシャル・フリージングで安定した品質のものを提供出来る様、上手に工夫されています。損失率も少なくなり経営面にもメリットがあるとのことでした。

《加工食品類》

茨城県にある民宿経営のS荘は貯蔵中の食材鮮度が悪くなることを考えると、思い切った仕入れが出来ず宿泊客の変動に対応出来ないことが多く、料理提供の時間が一時期に集中するなどの問題をかかえていましたが、これで解決出来、天ぷら・コロッケ・ハンバーグなどを計画的に予備調理して置けるので、突然の客にも自由に対応することが可能になったと喜んでいました。

シュウマイ・ギョウザに独自の工夫をこらしている九州の食堂Q店では、肉類、半加工食品で捨てるものが相当な金額になり困っていたが、パーシャル・フリージングにより味よく、捨てずにほとんど使える様になったので感謝されています。

大阪ミナミ日本料理のT店は鮮魚、肉の他に漬け物類に活用しています。自身の魚・貝類・ミョウガ・キャベツ・ニンジン・ダイコン等の漬物に特長を持たせた良い味、減塩の味を提供されている。

5. おわりに

“お水取り”で有名な東大寺二月堂は大仏殿を眼下に奈良を一望に出来る高い所にあります。

参詣するためには中央の巾広い石段を53段登る他に、三通りの登り石段があります。同じ53段でも石段の中央部に手摺のついた、途中に一休み出来る様、少しスペースを設けた折曲がった石段。屋根のついた86段の傾斜のゆるい石段。更に少し急な傾斜の45段の四通りの石段です。

奈良時代の遠い昔に寺を参詣する善男善女のためには様々な状況に対応した選択が出来る様な素晴らしい工夫、相手に対するいたわりが感じられます。

私共は貯蔵の方法としてヨーロッパから冷蔵・冷凍の技術を学びました。日本は未だ和食文化が残っています。このすばらしい和食を貯蔵する中間温度帯のパーシャル・フリージングを実証、世の中に広めてきました。

工学の世界も合理性だけではなく、今後は様々な人々にお役に立つよう色々な工夫、いたわりの心を持った配慮が必要な時代になって来ているように思います。

東大寺二月堂の石段登り口で、次の様な言葉を頂きました。

常為利衆生
不求自安樂

(電気工学科第4回卒業)

海外公営企業事情調査団に参加して

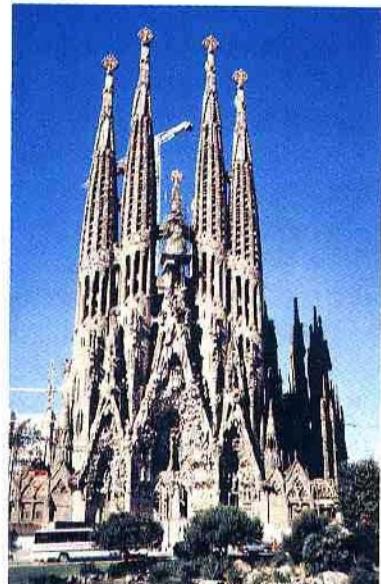
郡山市水道局長 松山光克

先ず、昭和63年7月に16日間にわたり、ヨーロッパ諸国を見聞することができる機会をいただきましたことを、関係者の皆様に感謝申し上げます。私は33年間市民の生活用水の水道事業に取り組んできましたが、海外の実情は間接的な知識のみで、目で見て実際に蛇口からの水を飲むことはなかった。

訪問先は、スペイン(7%~7%)のマドリッドとバルセロナ市庁、フランス(34%~36%)のルーアン市とパリ、ベルギー(7%~7%)のブラッセルとグルージュ、西ドイツ(7%)のフランクフルト市、イギリス(7%~7%)のサザーン地方でした。

各ホテルでお冷を注文すると必ずビン詰め水が運ばれる。それにはソーダを含ませたものと含まれていないものと二種類がある。ヨーロッパに出発前には海外出張経験者から、必ず注意されたことは、生水は飲まないこと、ビン詰め水を飲んだ方が安心とか、正露丸を携帯すべき等、大変な心配もいただき、本人も出發前から精神的に不調気味であった。

本論に入るが、水道に携わる者として述べるが、ヨーロッパ諸国では生水は飲まない風習があるようである。水質的に石灰分が多く、昔は紅茶を愛用し調整しているとのガイドの説明である。(水源は地下水が多い)ビン詰め水が水道水より優れているという証拠はどこにもない。一つの例では、長時間暖かい場所で保存されたビン詰め水のなかの細菌的な水質は、蛇口からの新鮮な水道水のレベルより相当下回ることがあり得るとされている。イギリスのワーシング、サザーン地方水管理公社で、私が蛇口からの水のことを質問したが、心配ありませんから十分飲んで下さいと答えていました。さらに価格に大きな差があります。ビン詰め水1ℓは水道水2,000ℓ程に匹敵します。人々はビ



スペインのバルセロナのサグラダ・ファミリア教会 1883年建設が着工されいまだに継続中

ン詰め水の味のため、この高い値段の支払を選択するのであろうが、味の対照試験では多くの人はビン詰め水より水道水を好んで飲んだと言われています。

研修日程16日間で、下水道事業、ガス事情、配電事業、上水道事業を調査したが、そのうちサザーン地方(イギリス)の上下水道事業について述べます。

1. 事業の沿革及び概要について

(1) 事業の沿革

イギリスでは1974年以前は全国で何百という機関が個々に上水の供給及び下水の処理を行っていたが、1974年政府が全国に10の水管公社を設立し、上水の供給及び下水の処理のサービス提供を行うよう決定した。公社設立の理由はウォーターサイクル(河川管理)を一元化することにある。これによって10の水管公社が設立され全国をカバーすることになった。そのうちの1つがこのSOUTHERN WATER AUTHORITIESであり、本部がワーシングにある。

(2) 事業の概要

公社はワイト島、ハンプシャー州、サセックス州及びケント州の地域において、上水の供給、下水の処理及びウォーターサイクル業務を担当している。この地域に住んでいる人々は経済的に非常に豊か、環境の保全ということに強い関心をもっており、公社の高い水準のサービスを求めている。この地域は海岸線が長く観光事業も重要である。海水浴などのため海水の汚染防止の関心も高い。このことから、過去14年間に、下水を海に放流するパイプを沖合まで延ばし、海岸の環境汚染を防止した。この地域には多数の河川があり、魚釣りやレクリエーションに利用されている。そのた



サザーン地方水管公社
David Gadbury企画部長(右) 松山(中)

め河川に放流する下水の処理水の水質基準は非常に高いものが要求される、上水の需要も年々増加しており、貯水池の建設及び地下水資源を確保しなければならなくなっている。以上の業務を行うために、公社は3,200人の職員を採用している。公社の事業は国有事業の一部で、公社は政府の所有である。

2. 料金について

(1) 料金の決定基準

料金決定の基礎となるのは家庭の数と不動産の数とその価値である。料金レベルについては中央政府の意向が非常に強く反映される。毎年、中央政府と公社との話し合いでその年の利益目標が設定され、さらに借

入金の額についても決められる。この二つを達成するにはどれだけの料金にすればよいかを理事会の承認を得て決定される。

3. その他

現在公社の重要な問題として民有化の問題があるが、公社としては民有化により事業が多角化（水道工事、下水清掃など）できるので原則的には賛成のようである。以上のことから大規模であり日本とは比較にならない。ほとんど国が関与している。

後輩諸君も海外の事業を大いに見聞し、将来の日本のエンジニアとして役立つことを切望します。

(土木工学科第3回卒 工学部校友会理事)

校 友 短 信

(校友会事務局へのお便りや、連絡などから)
無断で掲載いたしました。ご了承下さい。

土木工学科

◆菊田龍之 (22回卒、日本上下水道設計㈱)

アメリカコロラド州立大学大学院土木工学科環境衛生工学科卒業。1980年帰国後、現在の会社に入社。過去7年間、フィリピン・タイ・韓国など国外在住しています。

(S. 63. 11. 26受)

私の勤務校では、中国留学生を迎え、5年目になります。今回、第4次訪中団の一員として同行し視察してきました。本校の卒業生は北京設計院の第一設計所副所長や通訳員として活躍しています。大学で学んだ知識を広く人に伝えることが少しでもできる環境に満足しています。

(S. 63. 11. 7受)

建築学科

◆三浦史郎 (16回卒、株式会社地域設計)

母校を訪ねる会に出席して懐しい顔とも会いたいナ一。業務で忙殺されている惨めさを、思い知りますネ一。それにもしても本当にいつもご案内頂きありがとうございます。

(S. 63. 10. 4受)

電気工学科

◆大島 稔 (19回卒、日立電子サービス株)

ただ今、海外勤務で、イギリスロンドンのHitachi Europe Ltdで仕事をしています。

(S. 63. 4. 11受)

◆藤田浩司 (31回卒、北海道夕張郡長沼町立中央長沼中学校)

日本最寒の地の母子里の学校から、札幌まで40分という都会の長沼町に転勤してきました。ボディビル部で体を鍛えた学生時代を懐しく思います。

(S. 63. 9. 22受)

機械工学科

◆内田幸雄 (17回卒、いすゞ自動車㈱)

今年の5月18日に、いすゞモーターズアメリカINC.より帰任し、川崎工場製品企画室に勤務しています。

(S. 63. 6. 16受)

◆小野博司 (18回卒、久保田鉄工㈱)

久保田鉄工㈱に在職し、只今イギリス駐在でオックスフォードにいます。

(S. 62. 9. 21受)

◆二木好文 (18回卒)

昨年3月より、西ドイツのLüneburgにいます。

(S. 63. 1. 18受)

◆益子慎治 (23回卒、福島県立会津高校技術専門学校 建築設備科)

工業化学科

◆田口吉夫 (13回卒、エーザイ㈱)

台湾駐在6年で新工場を建設し、帰国後早や4年がたちました。

(S. 63. 5. 30受)

◆天谷幹也 (16回卒、日本パーカライジング㈱)

1987年10月から約3年間、インドネシアにおける合弁会社に出向中で、母校を訪ねる会へは出席できません。

(S. 63. 9. 9受)

◆藤田和夫 (23回卒、日本気象協会)

当方、沖縄で大気質関係の環境調査を行っておりまます。定期的に来る会報を楽しみにしています。

CAMPUS

mini-MEMO

◇校友の母校での教員

昭和63年4月1日付で昇格されました。
教 授：続 馨（電12回卒）工博
小林 力（電13回卒）工博
助 教 授：大平賜一（電16回卒）
専任講師：橋本 純（機25回卒）工博

◇足立和夫先生御逝去

建築学科の足立和夫教授は、平成元年1月20日、病気のため逝去されました。享年61歳でした。足立先生は昭和40年10月から本学に勤務され、59年から63年まで、建築学科の主任もされ、多くの業績を残されました。ご冥福をお祈り致します。



◇日本大学大学院工学研究科だより

62年度、次の2人に工学博士の学位を授与。
藤原雅美：錫材における塑性変形と転位の動的挙動
62.11.30
片峰昭彦：表面層欠陥に対する超音波探傷法の開発とその応用 63.3.14
藤原君は機械工学科の23回卒で、現在、母校の一般教育科で助手をしています。

北海道支部

支 部 長 松山 忠壯（土14回）東急建設株
事務局長 松久 房夫（土19回）札幌市下水道局

東京支部

支 部 長 古村 和夫（土3回）古村建設株

東海支部

支 部 長 平野 卓（土3回）
東京エンジニアリング株名古屋支社
事務局長 河野 叶（土6回）福德建設株

九州支部

支 部 長 矢俣 敏之（建8回）株大林組福岡支店
事務局長 陶山 順一（建15回）株陶山建設

四国支部

支 部 長 谷久 嘉典（土8回）有谷久工務店
事務局長 渡部 修三（土19回）渡部工業株

◇課外活動各部の活躍(63年1月～12月)(学生課調べ)

- 日本大学体育大会
△バスケットボール部（於国際関係学部）(%, %)
3 位
○第39回東北地区大学総合体育大会（於山形市）
(% ~ %)
△軟式庭球部 優勝
△剣道部 準優勝
△バレーボール部 3 位
△空手道部：個人 型の部 3 位 田中弘樹
○全国大会出場
△ボウリング部
第19回全日本学生個人選抜ボウリング選手権大会
(% ~ %)（於品川プリンスホテル）
△ボディビル部
第15回全日本学生パワーリフティング選手権大会
(%)（於埼玉県）
△剣道部
第36回全日本学生剣道選手権大会
(%)（於日本武道館）
△弓道部
第36回全日本学生弓道選手権大会
(% ~ %)（於神戸市） (た)

〔編集後記〕

○昭和33年5月に創立された校友会は、30年めを迎えました。それを記念して「特集号」を編集しました。ご協力下さいました各位に御礼申し上げます。
○昭和53年6月以来、長い間にわたって校友会事務局に勤務されました影山英雄さんは、63年9月末日で退職されました。なお、後任には田中孝さんが10月から勤務されております。
○日本大学は平成元年10月4日に創立100周年を迎えます。校友会会員全員でこの慶事をお祝いしたいと思います。

校友会報 第52号

〔校友会創立30周年記念号〕 発行部数 35,000部
発 行 所 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-11
電話番号 郡山(0249)44-1327
振替口座番号 郡山5-1990
発 行 日 平成元年3月1日
発行者代表 会長：武田仁幸
編集者代表 事務局長：佐藤光正